

栃木県埋蔵文化財調査報告第 379 集

大塚遺跡

—快適な道づくり事業費（交付金）主要地方道宇都宮向田線大塚工区に伴う
埋蔵文化財発掘調査—

2016. 3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団



お お つ か い せ き
大 塚 遺 跡

—快適な道づくり事業費（交付金）主要地方道宇都宮向田線大塚工区に伴う
埋蔵文化財発掘調査—

2016. 3

栃 木 県 教 育 委 員 会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

大塚遺跡は、栃木県南東部、芳賀郡芳賀町下高根沢地内に所在します。町の西側を南流する鬼怒川と、中央を流れる野元川に挟まれた宝積寺台地には、多くの遺跡が所在し、先人たちの営みが知られています。一方、近年は複数の大規模工業団地や土地地区画整理事業等によって、職住接近の新市街地形成を目指して整備が進められているところです。

この度、遺跡の付近に広がる工業団地周辺の渋滞解消を図るために進められている主要地方道宇都宮向田線大塚工区工事に先立ち、路線内に所在する遺跡の取扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。

発掘調査では、多数の土坑と、縄文時代、あるいは近世以降の遺物が出土し、当該時期における人々の生活の痕跡をうかがうことができました。

本報告書は、大塚遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって郷土の歴史を理解する一助となるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県県土整備部、芳賀町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

栃木県教育委員会

教育長 古澤利通

例 言

1. 本書は、栃木県芳賀郡芳賀町大字下高根沢字大塚地内に所在する大塚遺跡の発掘調査報告書である。遺跡の概要については、年報等で一部公表されているが、本書をもって正式報告とする。
2. 発掘調査は、快適な道づくり事業費（交付金）主要地方道宇都宮向田線大塚工区に伴う記録保存調査である。
3. 発掘調査は、栃木県県土整備部の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもとに、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが実施したものである。
4. 発掘調査及び整理作業・報告書作成の担当は次のとおりである。

【発掘調査】平成 26 年 5 月 1 日～平成 27 年 3 月 30 日
公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
整理課 係長 篠原浩恵
調査課 嘱託調査員 齊藤達也

【整理作業・報告書作成】平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 3 月 30 日
公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
副所長兼整理課長 藤田典夫
5. 本書の執筆は藤田が担当した。
6. 遺構・遺物の写真撮影は担当者が行った。
7. 重機による表土除去は有限会社小林建設産業に委託した。基準杭建植及び航空写真撮影は中央航業株式会社に委託した。
8. 発掘調査の実施ならびに報告書作成にあたっては、次の機関からご指導、ご協力を賜った。
栃木県県土整備部、真岡土木事務所、芳賀町教育委員会、宇都宮市教育委員会
9. 発掘調査参加者は、次のとおりである。
阿久津ヒロ、入江晴江、入江道子、小川征男、小川享二、加藤清、加藤レイ子、久郷ヨシエ、桑木二三夫、森千鶴子
10. 整理作業・報告書参加者は次のとおりである。
長道子
11. 本遺跡の出土遺物、資料類は公益財団法人とちぎ未来づくり財団で保管している。

凡例

1. 遺跡の略号は、大塚遺跡：HG-O T（H A G A - O O T S U K A）である。
2. 遺構平面図中の方位は、世界測地系（日本測地系 2000、Japanese Geodetic Datum 2000）平面直角座標系第Ⅸ系に基づいている。断面図中の水準は、東京湾平均海面からの標高である。
3. 写真図版の遺物の縮尺は基本的に統一していない。

目次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

図版目次

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯…………… 1

第2節 調査の方法と経過…………… 1

第2章 遺跡の環境

第1節 周辺の地理…………… 5

第2節 周辺の遺跡…………… 5

第3章 遺構と遺物

第1節 調査の概要…………… 11

第2節 遺構と遺物…………… 11

(1) 遺構…………… 11

(2) 旧石器時代の調査区…………… 30

(3) 縄文時代の精査区…………… 32

(4) 遺構出土の遺物…………… 32

(5) 遺構外出土の遺物…………… 34

第4章 まとめ…………… 36

挿図目次

第 1 図	確認調査の位置	2
第 2 図	調査対象範囲と調査区	2
第 3 図	グリッド配置図	3
第 4 図	栃木県地形図	6
第 5 図	大塚遺跡の位置と周辺の主要遺跡	8
第 6 図	基本土層図	11
第 7 図	発掘調査全体図	12
第 8 図	遺構配置図	13
第 9 図	遺構実測図 (1) S-1 ~ 8	15
第 10 図	遺構実測図 (2) S-9 ~ 16	17
第 11 図	遺構実測図 (3) S-17 ~ 27	19
第 12 図	遺構実測図 (4) S-28 ~ 38	21
第 13 図	遺構実測図 (5) S-39 ~ 45	23
第 14 図	遺構実測図 (6) S-46 ~ 50	25
第 15 図	遺構実測図 (7) S-51 ~ 55	27
第 16 図	遺構実測図 (8) S-56 ~ 60	29
第 17 図	旧石器時代の調査区と土層図	31
第 18 図	遺物実測図 (1) 縄文土器・石器	33
第 19 図	遺物実測図 (2) 土人形	34

表目次

第 1 表	周辺の主要遺跡	9
-------	---------	---

図版目次

図版一	調査区全景	航空写真
図版二	調査区近景	航空写真、近景
図版三	遺構（一）	遺構確認状況、トレンチ、基本土層、S-1
図版四	遺構（二）	S-2～7
図版五	遺構（三）	S-7・8
図版六	遺構（四）	S-8～11
図版七	遺構（五）	S-12～15
図版八	遺構（六）	S-16～19
図版九	遺構（七）	S-20～23
図版十	遺構（八）	S-24～28
図版十一	遺構（九）	S-28～32
図版十二	遺構（十）	S-32～36
図版十三	遺構（十一）	S-36～40
図版十四	遺構（十二）	S-40～45
図版十五	遺構（十三）	S-46～50
図版十六	遺構（十四）	S-50～57
図版十七	遺構（十五）	S-59・60・旧石器時代調査・遺物出土状況・調査区完掘
図版十八	遺物（一）	縄文土器
図版十九	遺物（二）	石器
図版二十	遺物（三）	土人形

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過

栃木県では、近年の時代の潮流や社会経済情勢、県民の意識・価値観の変化等に的確かつ柔軟に対応しながら、目指すべき将来像である『「安心」「成長」「環境」をともにつくる、元気度 日本一 栃木県』の実現に向けて、平成23年2月に栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」を策定した。

これを踏まえ、栃木県県土整備部（以下県土整備部と略す）では各種分野別計画の重点施策をまとめた『「とちぎ」の「安心」「成長」「環境」を支える県土整備プラン（平成23年度～平成27年度）』を作成した。そのなかで、通勤・通学などの日常生活を支える交通網の充実を図るための「渋滞対策」などを推進し、暮らしやすく利便性の高いまちづくりを進めることが重点施策のひとつに位置付けられた。その対象に主要地方道宇都宮向田線道路改良事業がある。

栃木県道64号宇都宮向田線は、宇都宮市本町を起点とし、東に向かいJR宇都宮駅東口の大通りに合流し、柳田大橋で鬼怒川を越え、芳賀町、高根沢町を通過し那須烏山市南部の向田を終点とする延長約28kmの主要地方道である。鬼怒川を超えた宇都宮市野高谷町や芳賀町下高根沢周辺などは、宇都宮テクノポリスセンター地区土地区画整理事業の展開や、芳賀工業団地などが所在するなど、特に朝夕時は慢性的に渋滞の激しい箇所である。主要地方道宇都宮向田線道路改良事業のうち大塚工区は、芳賀町大塚近辺の約1.5km区間で、この周辺の渋滞解消を図るためにバイパス整備を進めている。

この整備事業地の埋蔵文化財については、平成20年3月に一度所在調査を実施しているが、現況が山林であったために一部未実施などがあった。

栃木県教育委員会事務局文化財課（以下文化財課と略す）では平成24年度に、県土整備部が実施する平成25～26年度の事業を照会、県土整備部からは、主要地方道宇都宮向田線道路改良事業として路線内に大塚遺跡が所在する旨の回答を受けた。文化財課は県土整備部と遺跡の取り扱いについて協議し、平成25年2月に所在調査を実施した。その結果路線内には、周知の埋蔵文化財包蔵地である大塚遺跡が所在することを確認し、路線内のいくつかの地点で遺跡の広がり、時代等を知るため確認調査を実施することとなった。

平成25年5月、文化財課では予定地内の9カ所にトレンチを設定した（第1図）。設置箇所は、大塚遺跡として町の遺跡分布調査報告書で括られた範囲内（T1）と隣接地（T2～6）の6カ所と、その北方台地上の3カ所（T7～9）である。確認調査の結果、T2・3で遺構が確認されたため、T1～3の範囲において工事を実施する場合には事前に記録保存のための発掘調査を実施し、遺跡の性格を把握し記録保存する必要性を認める旨、県土整備部に対し回答した。

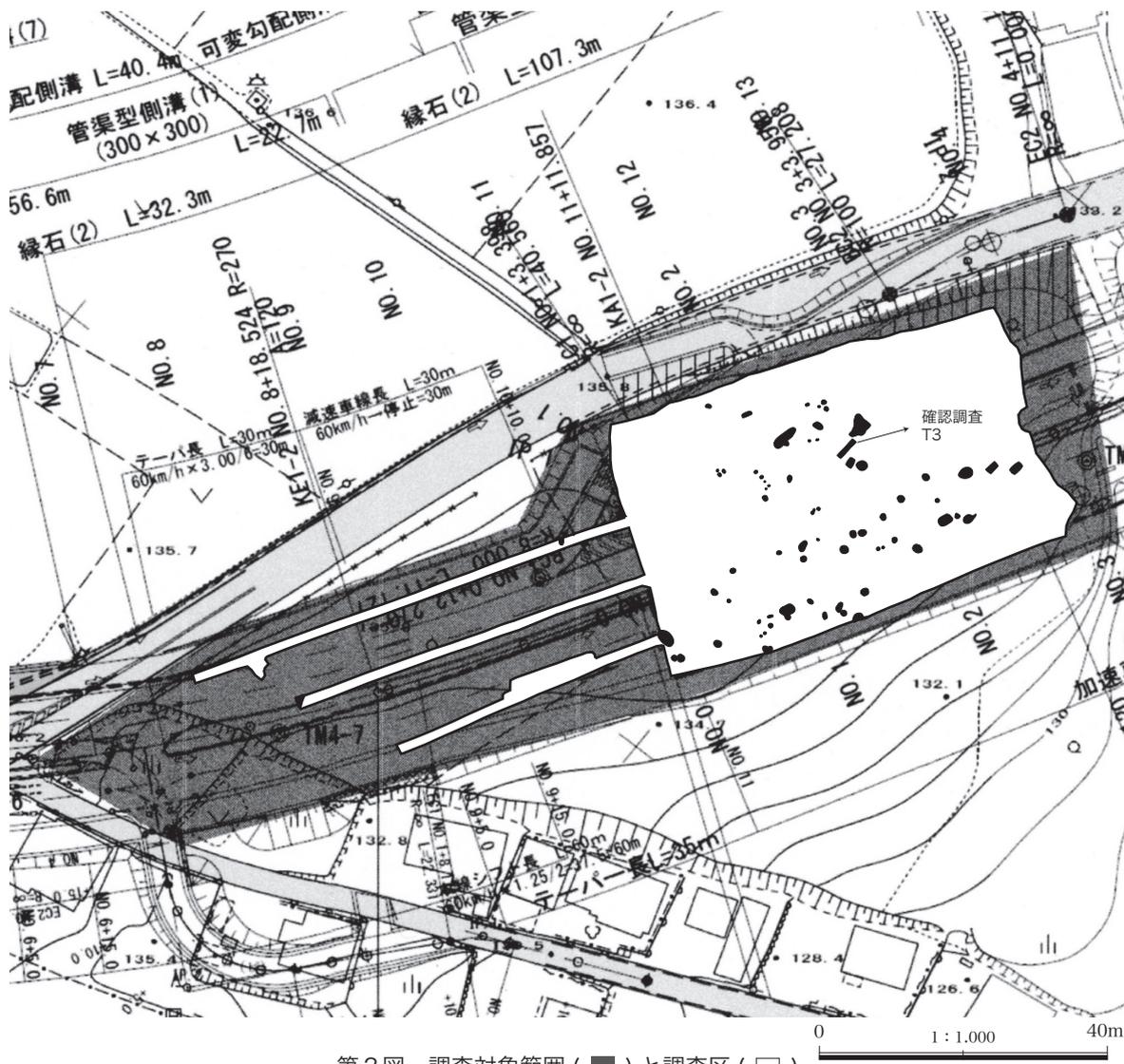
発掘調査は平成26年度に実施することとなった。5月1日付けで栃木県と公益財団法人とちぎ未来づくり財団との間で、大塚遺跡発掘調査（快適な道づくり事業費（交付金）主要地方道宇都宮向田線大塚工区に伴う発掘調査）を委託する旨の埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書を締結した。発掘調査は埋蔵文化財センターが実施することとなった。同日に県土整備部真岡土木事務所・県教委文化財課・埋蔵文化財センターで現地協議を行い、調査対象地区、対象面積、その他調査遂行にあたっての様々な問題、条件等を確認し、現地調査の準備に入った。

第2節 調査の方法と経過

現地の調査は、事務所設営、作業員の募集・任用手続き、届出等書類の準備を経て、5月下旬に重機に



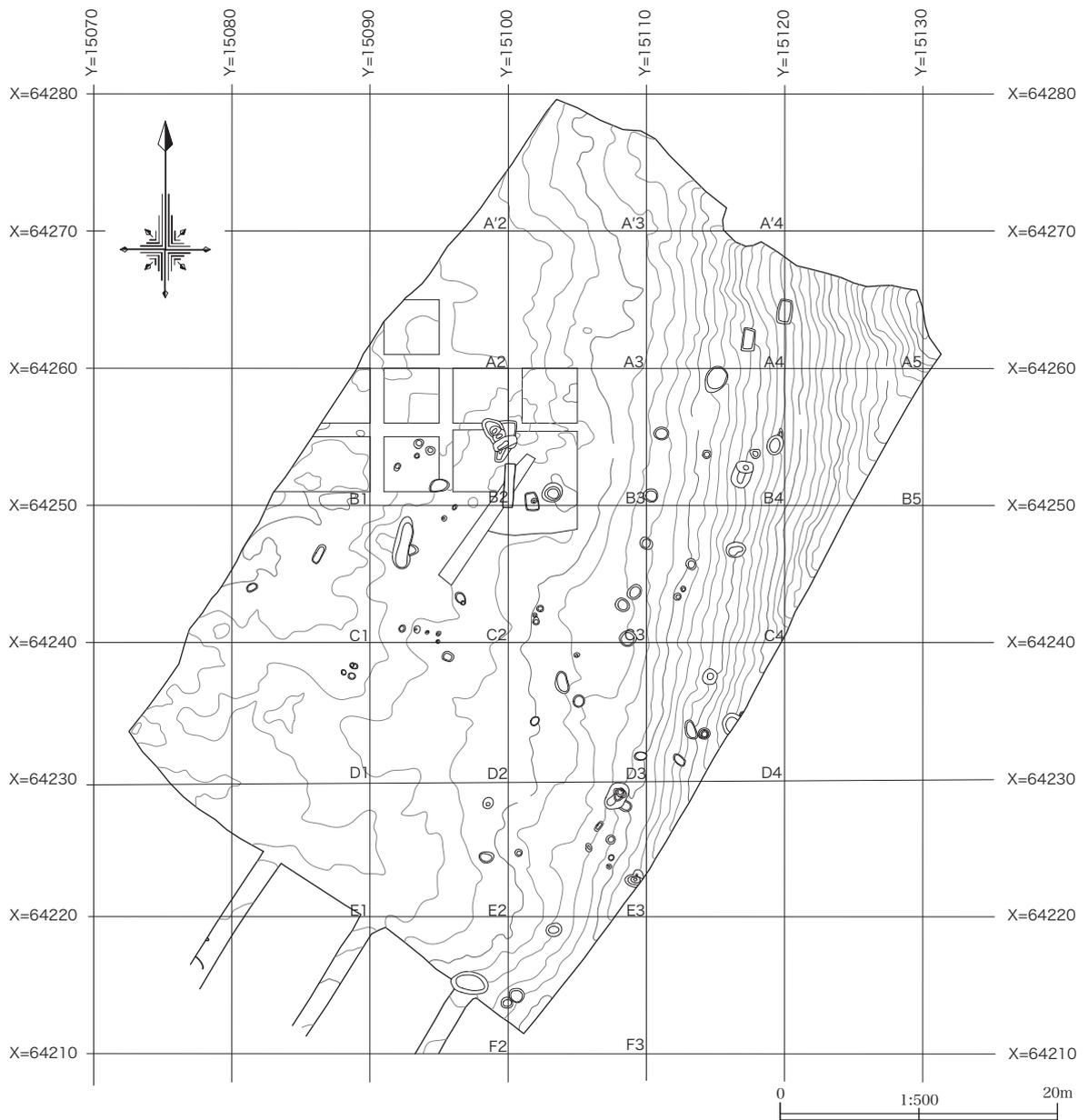
第1図 確認調査位置図



第2図 調査対象範囲 (■) と調査区 (□)

よる表土除去を先行させ、6月から作業員を投入して本格的に着手した。さらに遺構確認作業と併行して10 mメッシュで調査区全域に基準杭の埋置を行った。

現地調査の対象となるのは、現道の東側平坦面から斜面にかけての範囲約 5200 m²である。長さは約130 m、幅は、北半分が約 35 m、南半分が約 25 mである。文化財課が確認調査で設定したトレンチは、T 3が北半分の中央、T 2が南半分の中央にあたる。確認調査のT 1・2は遺構の密度が薄いと判断されたことから、北側部分は全面調査、南側部分はトレンチを設定し、遺構が確認されたものについて調査することとした。



第3図 グリッド配置図

第1章 調査の経緯

全面調査とした北側約 3000 m²は、重機により表土除去を行った。遺構確認面は黒色土直下の七本桜軽石層直上であるが、この層は基本的に薄く、堆積も一定していないため、場所によってはその下の今市軽石層面であることもある。現地表からは平均 25 cmほどの深さである。表土除去後、鋤簾により確認面の精査を行った結果、60 ほどの遺構を確認した。多くが 1 m内外の土坑で小穴もあるが、建物跡になるようなものはない。それらは平坦面から東斜面へ移行する際に多く、等高線に平行するように南北に分布している。

調査区は世界測地系平面直角座標系第IX系に基づき 10 m方眼を組んだ。各方眼の北東角を基準とし、X軸（東西）は東にA～F（Aの北にA'）の7列、Y軸（南北）は1～6の6列を設定した。X = 64270、Y = 15100の交点をA-3とし、そこを起点に南東 10 m四方をA-3グリッドと呼称し第3図のとおりグリッド網をかぶせた。このグリッドは遺物の取りあげと調査区の中での遺構の位置を知る目安とした。

土坑・小穴の調査は、基本的に長軸に合わせて半裁し、セクション写真撮影（35 mmリバーサルフィルムとモノクロフィルム）とセクション図面作成（縮尺 1 / 20）を行った。その後残り半分を掘り上げ、全景写真の撮影と平面図を作成することが一連の工程である。

調査区中央の平坦面、具体的にはA-2、B-1、B-2、B-3グリッドにかけては、遺構確認時に黒色土中において縄文土器が出土し、遺構が存在する可能性があるため、調査区を設定し、ローム面まで 5～10 cmほど掘り下げて精査している。

一方、トレンチ調査とした南側では、幅 1.5 mのトレンチを、7 m間隔で3本設けた。長さは東斜面側（3トレンチ）が 40 m、中央（2トレンチ）が 51 m、現道側（3トレンチ）が 63 mである。その結果、1トレンチ内で土坑が1基確認されたのみで（S-1）、ほかに遺構は検出されなかった。

このような経過を経て、7月の中旬でほぼ遺構の調査は終了し、7月15日に航空写真の撮影を実施した。

遺構確認の段階でD-4グリッドにおいて旧石器時代の石器が1点出土していたため、航空写真撮影後は、同グリッド内に深掘の調査区を2カ所設定し、ローム層を 1.5 mほど掘り下げた。その結果石器その他の遺物は確認されず、セクション写真撮影とセクション図面を作成して調査は終了した。なお、この調査区及び比較的深い土坑については危険防止のため埋め戻しを行い、7月25日をもって大塚遺跡の現地調査は終了した。

平成 27 年度は 12 月 1 日付けで栃木県と公益法人とちぎ未来づくり財団との間で、大塚遺跡発掘調査（快適な道づくり事業費（交付金）主要地方道宇都宮向田線大塚工区に伴う発掘調査）を委託する旨の埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書を締結し、同日より整理作業及び報告書作成を開始した。写真類の整理はリバーサル、モノクロともにフィルム 19 本分の注記をし、アルバムを作成した。現地で作成した図面類は平面図・断面図等 43 枚分で、その修正を行った。遺物については洗浄の後、掲載遺物の選別を行い、掲載遺物 35 点を選別、実測した。遺構図面はデジタルトレースをして図版作成し、遺物図面はトレース後、スキャニングして図版を作成した。併せて遺物写真撮影、版組、原稿執筆を行い、平成 28 年 3 月の報告書の刊行をもって大塚遺跡の発掘調査はすべて終了した。

第2章 遺跡の環境

第1節 周辺の地理

大塚遺跡は栃木県芳賀郡芳賀町大字下高根沢字大塚地内に所在する。芳賀町は栃木県南東部、県都宇都宮市の東に隣接し、北は高根沢町、東は市貝町、南は真岡市と境を接している。町の中央は五行川と野元川が流れ、県内でも代表的な水田地帯が形成されている。東部と西部は、果樹や野菜類をはじめ、施設園芸、畜産などの都市近郊型農業が盛んで、特に、幸水や豊水などの梨は町を代表する特産品で、県内有数の生産地となっている。近年は西部の台地に大規模な工業団地や商業施設が相次いで造成され、多くの企業が進出するなど、周辺の状況は大きく様変わりしている。

栃木県の地形は、大きく西部山地、中央部低地、東部山地からなる（第4図）。西部山地は、大佐飛山地、帝釈山地、塩谷山地、足尾山地などからなり、東部山地は八溝山塊、鷲子山塊、鶏足山塊等からなる八溝山地である。両山地に挟まれて中央部低地が広がっており、関東平野の北縁をなす。山地から延びる丘陵、および東西に交互に繰り返される台地と、低地・河川からなり、中央を鬼怒川が貫流する。全体に南に向かって緩やかに傾斜し、台地を開析する河川は概ね南流している。

芳賀町は中央部低地に含まれる。町の地形は、西部の台地、中央部の低地、東部の丘陵の3つに分かれている。西部の台地は鬼怒川によって形成された河岸段丘の西端にあたる。最も古い地形面（宝積寺面）であり、宝積寺台地と呼ばれている。高根沢町宝積寺から南に細長く延び、茨城県下館市にいたる。概ね平坦で、東側の低地との比高は約30mである。中央部は、鬼怒川の分流である五行川や野元川が貫流し、平坦な低地が形成されている。最も新しい地形面（絹島面）であり、水田地帯が広がる。東部の丘陵は喜連川丘陵と呼ばれ、緩やかな起伏を見せる。芳賀町近辺は鶏足山塊西麓にあたり、稲毛田台地（宝木面）、さらに下位の祖母井台地（田原面）で五行川低地に連なる。芳賀町の中心地はこの祖母井台地上に形成されている。

大塚遺跡は町の北西部、宇都宮市、高根沢町に近接した位置にあり、宝積寺台地上に立地している。宇都宮市街地から東北東に11.5km、芳賀町の中心地からは北西約6kmに所在する。宝積寺台地は、台地の中を小河川が開析した幅狭の低地が樹枝状にいくつも延び、大塚遺跡もその一つの低地を望む東斜面に位置している。調査区の西約半分以西は標高136m前後の平坦面で畑地となっているが、東半分及び北側は低地に向かって緩やかに傾斜していく。低地の標高119m前後、調査区との比高は17mほどである。

第2節 周辺の遺跡

大塚遺跡の周辺には南北に展開する地形に沿って多くの遺跡が所在する。第5図は芳賀町を4分割したうちの北東部と宇都宮市と高根沢町の隣接する一部の範囲で、地形的には宝積寺台地とその東に展開する五行川低地にあたる。図には大塚遺跡の時代に関連する時代（縄文時代、中～近世）を中心に主要な遺跡を示してある。併せて第1表には各遺跡の概要を記した。

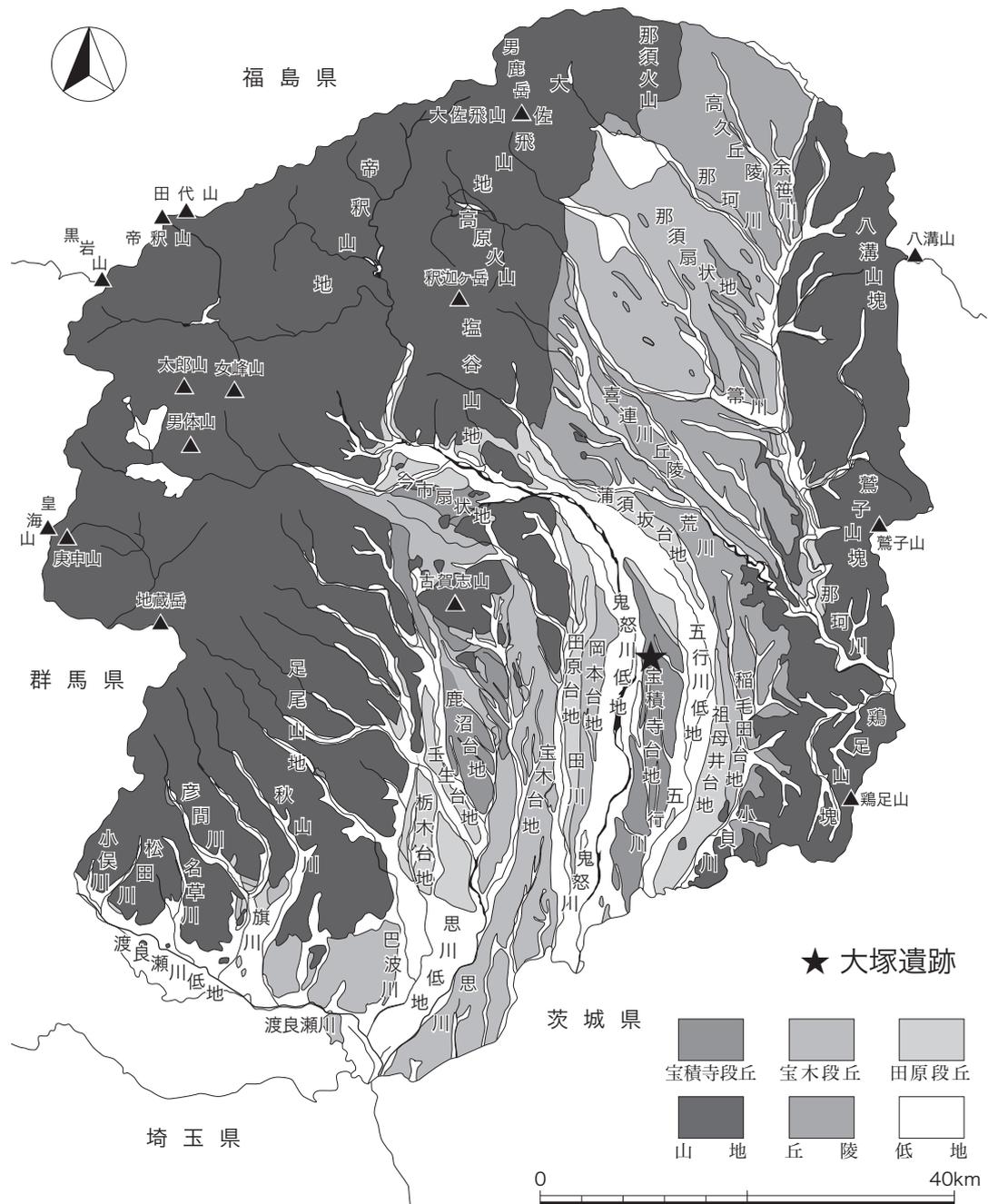
高根沢町から延びる宝積寺台地は、幅4～5kmで比較的広い平坦面をもつが、遺跡は縁辺部や、湧水、小河川に刻まれた樹枝状に延びる谷の周辺に所在するという特徴がみられる。以下、各時代の主な遺跡について略述しておく。

旧石器時代は若林遺跡がある。工場造成時にローム層断面から剥片石器1点と多数の剥片を採集している。出土層位は田原ロームの最下部という。

縄文時代は石神遺跡、上の原B遺跡、金井台遺跡、竹下遺跡、刈沼向原遺跡、刈沼遺跡などが知られて

第2章 遺跡の環境

いる。石神遺跡は道路建設により2回にわたる調査が実施された。住居跡6軒、袋状を含む土坑10基などが確認された。いずれも阿玉台式の時期で、うち1軒の住居は磨製石斧製作跡の可能性が指摘されている。上の原B遺跡は本田技研工業のテストコース外周部分の調査で、縄文中期の住居跡19軒、土坑167基が確認された。時期は阿玉台式新、加曾利E I式古・新、加曾利E II式にわたる。土坑は100基以上が袋状をなすものである。上の原B遺跡の南南東700mには金井台遺跡がある。昭和44年に調査された。配石遺構1カ所と袋状土坑を主体とした土坑が9基あった。遺物は縄文早期から中期前半阿玉台式、中期



第4図 栃木県地形図

後半加曾利E I式から後期前葉の土器が確認されているが、主体は加曾利E I式である。この近辺では上の原A・上の原C遺跡でも縄文土器が採集されており、大規模な遺跡である。

竹下遺跡は昭和28年に宇都宮大学が調査して以来8次にも及ぶ調査が行われている。これまでに住居跡35軒と土坑430基以上が確認されている。その範囲は南北300m、東西200m、縄文中期前葉から後期後葉にかけて営まれた大規模な遺跡である。刈沼向原遺跡、刈沼遺跡は隣接し、テクノポリスセンター地区開発による調査である。いずれも縄文晩期の集落で、住居跡は合わせて30軒近くが判明している。多量の土器には関東系と東北系の様相がみられ、各種の石器も大量に出土している。縄文時代のこの近辺は中期から晩期にかけての大きな集落の動向がわかる重要な地域である。

弥生時代はこの周辺で内容のわかる唯一の例が免の内台遺跡である。土坑1基から前期末の変形工字文の鉢などが出土している。また、遺構は不明であるが、後期の土器や磨製石鏃も見つかっている。

古墳時代は、集落としては谷近台遺跡、刈沼東原遺跡が挙げられる。谷近台遺跡は前期の集落で8軒の住居が調査された。良好な土師器のセットのほか、S字状口縁台付甕が多数出土している。刈沼東原遺跡はテクノポリスセンター地区開発による調査で61軒の住居跡が見つかっている。後期の6世紀前葉から7世紀後葉にかけて継続して営まれた集落である。

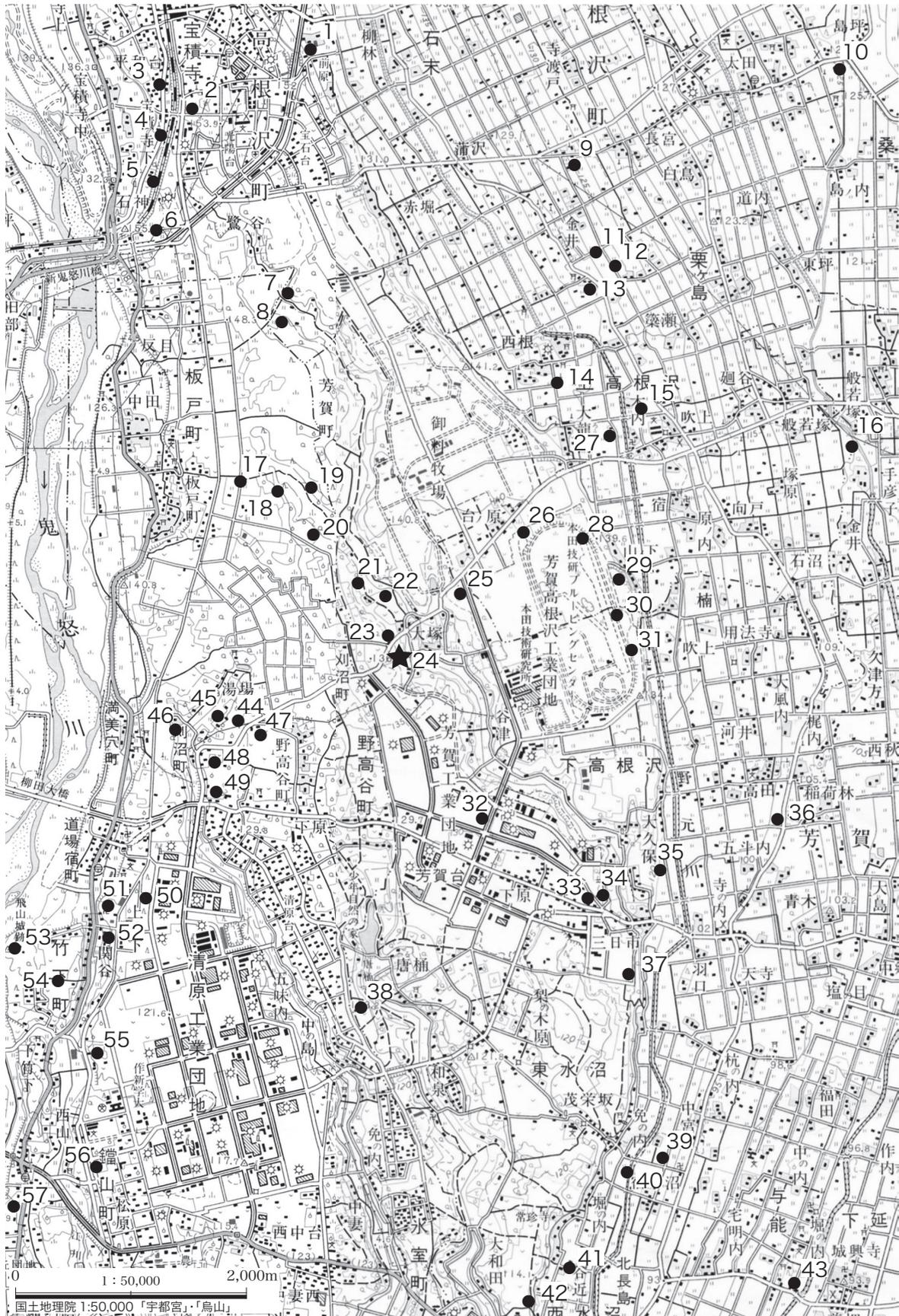
古墳は刈沼遺跡、後久保古墳、竹下浅間山古墳、谷近台古墳群などが挙げられる。刈沼遺跡では前期の方形周溝墓が7基確認されている。近辺の古墳時代墳墓としては最も古い。なお住居跡も2軒見つかっていて十王台式や北陸系の土器を含む。後久保古墳は全長48mの前方後円墳で埴輪が伴う。円筒のほかに人物・器材・馬形などが認められ、6世紀後半でも新しい時期に位置づけられている。竹下浅間山古墳は全長52.5mの前方後円墳である。昭和48年の発掘調査によってくびれ部に南に向けて開口する胴張りをもつ両袖形の横穴式石室があり、装身具、武器、馬具などが出土している。7世紀代の築造である。

奈良・平安時代は、免の内台遺跡がこの地域を代表する大規模な集落である。芳賀工業団地造成に伴い県・町が調査を実施している。住居跡98軒、掘立柱建物跡5棟などが確認され、土師器、須恵器、紡錘車、鉄製品などが出土している。この集落は5～6世紀は散発的にみられるが、継続的に展開するのが7世紀中葉からであり、以後9世紀後葉まで拡大・縮小しながら集落は存続する。谷近台遺跡は、古墳前期の集落とは地点を異にして8軒の住居が調査されている。飛山城跡では平安時代の住居跡から「烽家」の墨書土器が出土し、律令体制下で整備された緊急連絡通信ののろしを上げた施設と確認された。

中世は、飛山城跡、淡路城跡、同慶寺館跡、野高谷薬師堂遺跡がある。飛山城跡は鬼怒川を眼下に見下ろす段丘上にある。宇都宮氏の重臣芳賀高俊により永仁年間（13世紀末）に築かれ、東と南を二重の堀で、西と北を鬼怒川によって守られている。近くには芳賀氏が建立した同慶寺館跡があり、空堀、土塁などが残っている。野高谷薬師堂遺跡は本遺跡から南西1kmにある中・近世の大規模な墓地である。中世は地下式坑198基、井戸159基、竪穴遺構24基などが区画溝で囲まれている。近世から現代にまで薬師堂とよばれるお堂を中心に墓地が営まれていた。遺物は陶磁器、カワラケ、内耳土器などがある。この近くには宇都宮氏の重臣直井淡路守の居城とも伝えられる淡路城跡がある。

一方、五行川低地では現状が水田のため内容がわかる遺跡は少ない。旧石器時代では金井遺跡（旧西根B遺跡）で有舌尖頭器が3点、西根遺跡では石槍が採集されている。縄文時代では同じく西根遺跡が挙げられる。調査は実施されていないが広い範囲で中期～後期の土器、石器が採集されている。奈良・平安時代は、金井遺跡で8世紀後半から9世紀前半住居跡4軒が調査されている。

近年、芳賀・高根沢両町の詳細分布調査で、特に五行川低地において多くの遺跡の存在が認められるようになった。遺物は土師器、カワラケ等がほとんどで、古墳時代以降が中心となる散布地として把握されているものが多い。今後低地への調査の手が加わり歴史の解明が進展することを期待したい。



第5図 大塚遺跡の位置と周辺の主要遺跡

第1表 周辺の主要遺跡

番号	遺跡名	所在地	時代・時期	種類・備考	文献
1	柳林遺跡	高根沢町石末字権現堂、桑原	縄・古・奈～平・中・近	散布地	
2	若林遺跡	高根沢町宝積寺字若林	旧	工場造成時に剥片3点出土	
3	会橋久保庚申塚	高根沢町字会橋久保	中・近	径4m、高さ1.7mの塚 頂部に庚申塔	
4	坂ノ上小塚群	高根沢町字坂ノ上	中・近	径3～4m、高さ0.7mの塚2基	
5	下坂上十三塚	高根沢町字下坂上	中・近	12基存在	
6	石神遺跡	高根沢町字石神、下坂上	縄(中)・古・奈～平・中・近	集落跡 発掘調査	1
7	鷺ノ谷庚申塚	高根沢町字鷺ノ谷	中・近	径4～5m、高さ1.5mの塚	
8	鷺ノ谷弁天塚	高根沢町字鷺ノ谷	中・近	径5m、高さ1.5mの塚 頂部に弁天様の祠	
9	坪ノ内A遺跡	高根沢町寺渡戸字坪ノ内	縄・奈～平・中・近	散布地	
10	薬師堂遺跡	高根沢町太田字薬師堂、下宮	縄・古・奈～平・中・近	発掘調査 土坑・溝、土師質土器・内耳土器	2
11	西栗ヶ島遺跡	高根沢町栗ヶ島字西栗ヶ島	縄・奈～平・中・近	散布地	
12	海老川遺跡	高根沢町栗ヶ島字海老川	縄・奈～平	散布地	
13	金井遺跡	高根沢町上高根沢字金井	旧・縄(中～晩)・古・奈～平・中・近	集落跡 発掘調査	3
14	西根遺跡	高根沢町字西根、大籠内	旧・縄(前～後)・奈～平・中・近	集落跡	
15	大網遺跡	高根沢町上高根沢字大網	奈～平・中・近	散布地	
16	般若塚C遺跡	高根沢町上高根沢字般若塚	縄・古・中・近	散布地	
17	板戸愛宕塚古墳群	宇都宮市板戸町 2215	古	発掘調査 円墳2基	
18	不動上供養塚	宇都宮市板戸町 3620-1	江戸	供養塚	
19	山田遺跡	宇都宮市板戸町 3463	縄・古	集落跡	
20	不動遺跡	宇都宮市板戸町 3660	縄	集落跡	
21	虚空蔵山遺跡	芳賀町下高根沢字虚空蔵山 5338-4	縄	散布地	
22	小峯北遺跡	芳賀町下高根沢字小峯 5285	中	散布地	
23	小峯南遺跡	芳賀町下高根沢字小峯 5134	中	散布地	
24	大塚遺跡	芳賀町下高根沢字大塚	縄・近	発掘調査 土坑 75 本報告	
25	上山神北遺跡	芳賀町下高根沢字上山神 5207-1	縄	散布地	
26	上の原A遺跡	高根沢町上高根沢字上の原	縄・中・近	散布地	
27	松ノ木遺跡	高根沢町上高根沢字松ノ木	縄・奈～平・中・近	散布地	
28	高根沢城跡	高根沢町上高根沢字上の原	中	城館跡 発掘調査により堀を確認	4
29	上の原B遺跡	高根沢町上高根沢字上の原	縄(中)・奈～平・中・近	集落跡 発掘調査	4
30	上の原C遺跡	高根沢町上高根沢字上の原	縄	散布地	
31	金井台遺跡	芳賀町下高根沢字金井台	縄(中)・古・奈～平	集落跡 発掘調査	5
32	下原遺跡	芳賀町下高根沢字下原	縄(前)・古・奈～平	集落跡	
33	土塔塚墳墓群	芳賀町下高根沢字下原	近	塚群	
34	別所台館跡	芳賀町下高根沢字下原	中	城館跡	
35	別所台塚群	芳賀町下高根沢字大久保	近	塚群	
36	粟島遺跡	芳賀町下高根沢字下原	縄・古	集落跡	
37	免の内台遺跡	芳賀町東水沼字免の内台	縄・弥・古・奈～平	集落跡。発掘調査	6
38	後久保古墳	芳賀町東水沼字後久保・古留 2944	古	全長48mの前方後円墳	
39	五斗蒔遺跡	芳賀町東水沼字宿 750	縄・古・奈～平	集落跡	
40	免の内南遺跡	芳賀町東水沼字免の内	中	散布地	
41	谷近台古墳群	芳賀町西水沼字谷近台	古	円墳6基	
42	谷近台遺跡	芳賀町西水沼字鋤杖塚 1272	古・奈・近	集落跡 発掘調査	7
43	堀ノ内遺跡	芳賀町与能字堀ノ内 560	奈～平・中	集落跡	
44	刈沼東原遺跡	宇都宮市刈沼町 344-1	古	集落跡。発掘調査	8
45	鎮守林西遺跡	宇都宮市刈沼町 552-1	縄・奈	集落跡	
46	淡路城跡	宇都宮市刈沼町 469	室町	城館跡	
47	野高谷薬師堂遺跡	宇都宮市野高谷町 657	中・近	墓地 発掘調査	9
48	刈沼向原遺跡	宇都宮市刈沼町 268-11	縄・古	集落跡 発掘調査	10
49	刈沼遺跡	宇都宮市刈沼町 482-1	縄・古	集落跡 発掘調査	10
50	どどづか高塚	宇都宮市道場宿町 27	江戸	塚群	
51	同慶寺館跡	宇都宮市竹下町 1107	室町	城館跡	
52	竹下浅間山古墳	宇都宮市竹下町 1100-5	古	全長52.5mの前方後円墳 発掘調査 市指定	11
53	飛山城跡	宇都宮市竹下町 393-6	室町	城館跡 発掘調査 国指定	12
54	竹下遺跡	宇都宮市竹下町 712	縄・古	集落跡 発掘調査	13
55	千波ヶ原遺跡	宇都宮市竹下町 1412	縄・古	集落跡	
56	鑑山東原遺跡	宇都宮市鑑山町 191-1	縄・奈	集落跡	
57	草倉坂下遺跡	宇都宮市鑑山町草倉坂下 672	縄・奈	集落跡	

第2章 遺跡の環境

文献

1. 川原由典ほか 1982 『石神遺跡』 栃木県教育委員会、亀田幸久 1994 『石神遺跡』 栃木県教育委員会
2. 植木茂雄 2014 『薬師堂遺跡』 栃木県教育委員会
3. 常川秀夫 1981 「西根 B 遺跡」 『県営圃場整備地内遺跡発掘調査報告書』 栃木県教育委員会
4. 青木健二ほか 1981 『芳賀高根沢工業団地内上の原遺跡発掘調査報告書』 栃木県企業局
5. 塙静夫ほか 1970 『金井台』 芳賀町教育委員会
6. 山武考古学研究所編 1992 『免の内台遺跡』 芳賀町教育委員会、植木茂雄 1993 『免の内台遺跡』 栃木県教育委員会
7. 塙静夫ほか 1975 『谷近台遺跡発掘調査概要』 芳賀町教育委員会、篠原浩恵 1995 『谷近台遺跡』 栃木県教育委員会
8. 大塚雅之ほか 2005 『刈沼東原遺跡』 宇都宮市教育委員会
9. 田代隆ほか 2015 『野高谷薬師堂遺跡』 栃木県教育委員会
10. 常川秀夫 1973 『竹下浅間山古墳』 宇都宮市教育委員会
11. 宇都宮市教育委員会 1998 『宇都宮市文化財年報第 14 号』、1999 『宇都宮市文化財年報第 15 号』
12. 今平利幸 1989 『飛山城跡Ⅱ』 宇都宮市教育委員会
13. 赤石澤亮ほか 1989 『竹下遺跡Ⅱ』 宇都宮市教育委員会、今平利幸 2010 『竹下遺跡—第Ⅷ次調査—』 宇都宮市教育委員会

そのほか、

芳賀町教育委員会 1999 『芳賀町遺跡分布調査報告書』

芳賀町史編さん委員会 2001 『芳賀町史史料編考古』 芳賀町

高根沢町教育委員会 1994 『高根沢の遺跡』

高根沢町編さん委員会 1995 『高根沢町史史料編Ⅰ 原始古代・中世』 高根沢町
等を参考にした。

第3章 遺構と遺物

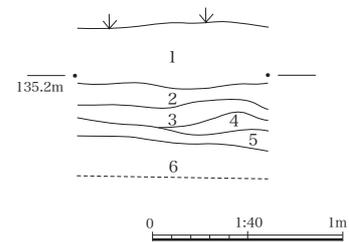
第1節 調査の概要

今回の調査では、遺構としては土坑あるいは小ピットを含めて約61か所を確認した。調査の過程で重複や複数の存在が判明したものなどがあり実数はそれを上回る。具体的に確定した遺構番号を列記すると、S-1、2、3、4、5、6a、6b、7、8A、8B、8C、8D、8E、9a、9b、10、11、12a、12b、13、14、15、16、17、18A、18B、19、20、21、22、23、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46A、46B、47a、47b、47c、48、49、50、51、52A、52B、53、54、55a、55b、56、57a、57b、58、59A、59B、59C、60の75遺構である。これらの遺構は、西側平坦面には少なく、斜面に向かう傾斜変換点から斜面にかけて多く分布している状況を示す。

記述にあたっては凡例でも触れたとおり、遺構番号は基本的に調査時のものに従っている。調査時の略号は土坑をSK、小穴をPとしたが、すべてSに統一した。同じ遺構番号で重複したものとしていないものがあるが、アルファベットの大きい文字と小さい文字を使い分けて表記した。すなわち、遺構が重複せず独立しているものは大文字とする。例えばS-8A、S-8B、S-8Cなどである。それに対し、遺構が重複しているものは小文字とする。例えばS-6a・6b、S-47a・47b・47cなどである。記述は、大文字のものは個別に記し、小文字のものは一つの遺構のなかで併せて記した。調査時の遺構番号は1～61までであるが、整理の段階で24と61は欠番とした。

土層説明の記載は、発掘調査時の観察に準拠している。混入物については略号を次のとおりとした。七本桜軽石…SP、今市軽石…IP、鹿沼軽石…KP。それぞれ粒、ブロックなどの状況で記した。含有量は多量、少量、微量で示した。なお、Kは攪乱を示す。

遺跡の基本土層はF-3グリッドの調査区東縁で観察した(第6図)。第1層表土、第2層暗灰褐色土(ローム、今市軽石、七本桜軽石混入)、第3層黄褐色土(ローム、今市軽石、七本桜軽石混入)、第4層暗赤褐色土(今市軽石層)、第5層黄褐色土、第6層黄褐色土(ローム)である。このうち遺構は第2層から3層上面で確認できる。なお第6層は第17図深掘りの土層図では第3層に対応する。



第6図 基本土層図

第2節 遺構と遺物

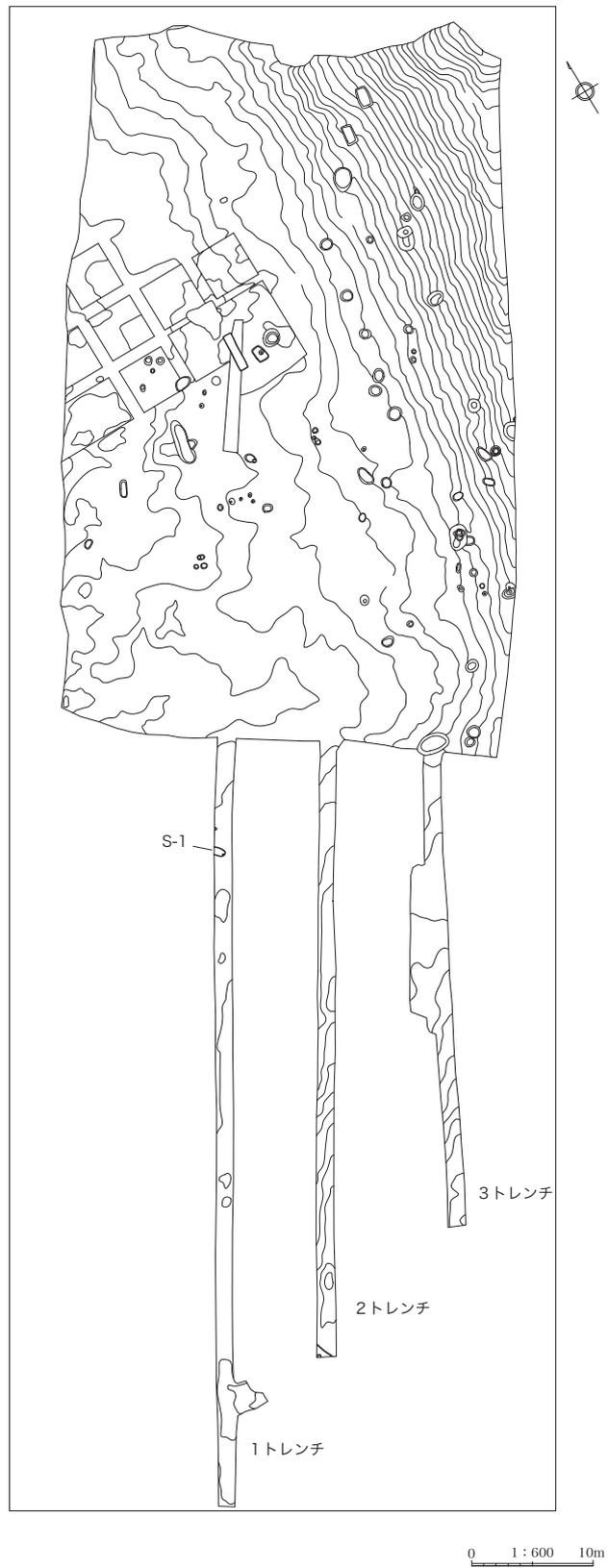
(1) 遺構

S-1 (第9図・図版三)

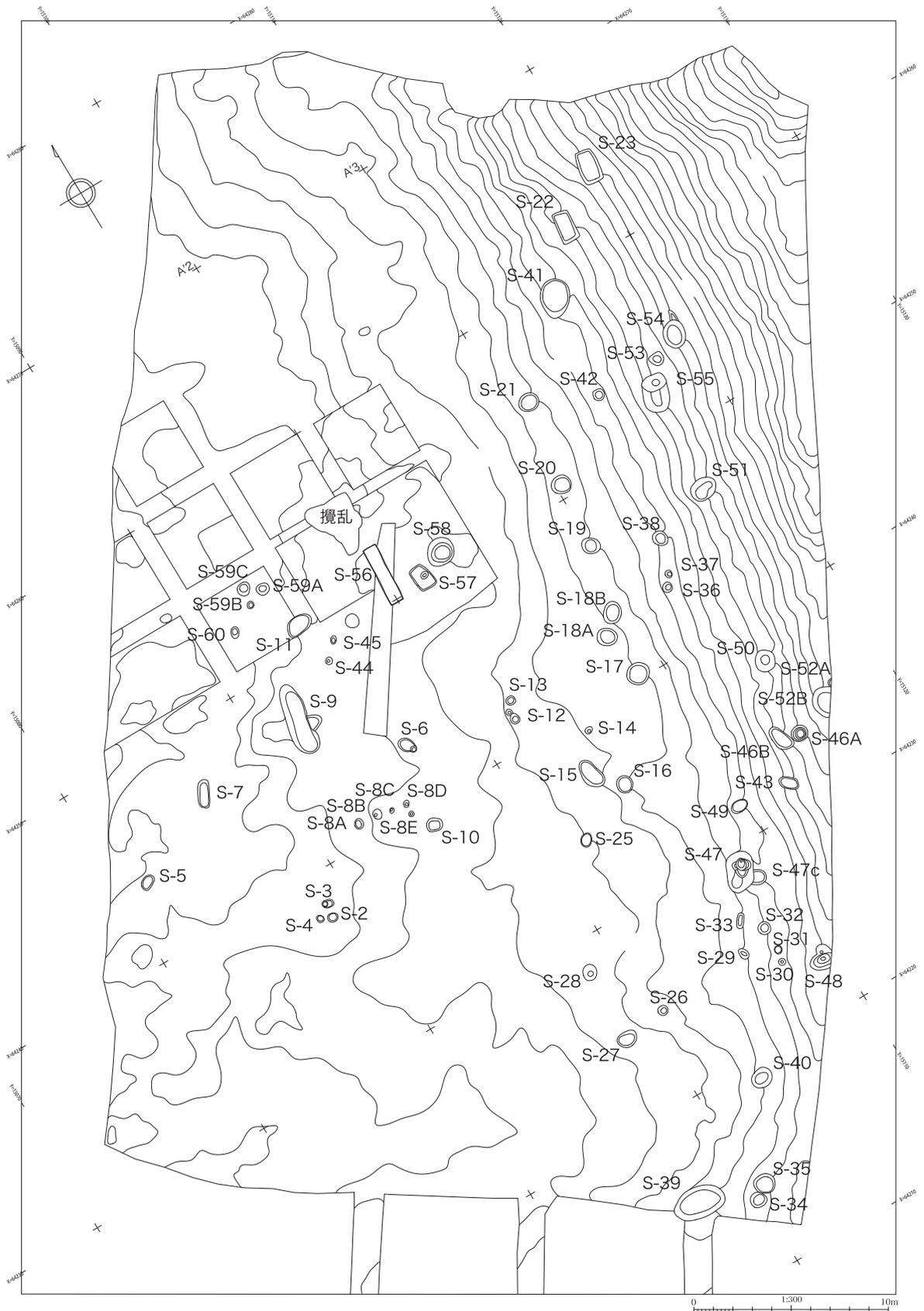
1トレンチ内北側に位置する。西側が調査区外に延び全体は不明であるが、長軸1m以上、短軸0.68m、長軸を北西-南東に向ける楕円形と推定される。遺構確認面からの深さは0.16mで浅い皿状をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-2 (第9図・図版四)

D-1グリッド北東に位置する。隣接してS-3・4がある。長軸0.61m、短軸0.51m、長軸を北西-南東に向ける円形で、遺構確認面からの深さは0.18m、浅い皿状をなす。覆土は3層に分けられ、



第7図 発掘調査全体図



第8図 遺構配置図

第3章 遺構と遺物

自然堆積である。出土遺物はない。

S-3 (第9図・図版四)

D-1 グリッド北東に位置する。隣接してS-2・4がある。長軸0.61 m、短軸0.5 m、長軸を北西-南東に向ける円形で、遺構確認面からの深さは東側が0.06 m、西側は0.2 mと一段深く掘られており、西側はやや傾斜をもって立ちあがる。覆土は5層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-4 (第9図・図版四)

D-1 グリッド北東に位置する。隣接してS-2・3がある。長軸0.45 m、短軸0.4 m、長軸を北西-南東に向ける円形で、確認面からの深さは0.1 m、浅い皿状をなす。出土遺物はない。

S-5 (第9図・図版四)

C-1 グリッド西に位置する。長軸0.9 m、短軸0.6 m、長軸を北東-南西に向ける整った楕円形で、確認面からの深さは0.18 m、底面は平らで壁はやや傾斜をもって立ちあがる。覆土は単層で自然堆積である。出土遺物はない。

S-6a・6b (第9図・図版四)

C-2 グリッド中央に位置する。長軸1 m、短軸0.73 m、長軸を北西-南東に向ける楕円形であるが、南側には直径0.4 mの円形ピットが掘られており、重複している。前者を6b、後者を6aとした。土層の観察から6bを6aが切って作られていることがわかった。確認面からの深さは6bの北側が0.22 m、中央が0.12 mと底面はやや凹凸がある。6aは0.26 mで断面U字形をなす。覆土は6aが3層、6bが4層に分けられる。いずれも自然堆積である。出土遺物はない。

S-7 (第9図・図版四・五)

C-1 グリッド中央に位置する。長軸1.48 m、短軸0.59 m、長軸を北東-南西に向ける隅丸長方形で北東隅がやや張り出す。確認面からの深さは0.28 mで、南側がわずかに低くなっている。壁はやや傾斜をもって立ちあがる。覆土は6層に分けられ、自然堆積であろう。出土遺物はない。

S-8A (第9図・図版五・六)

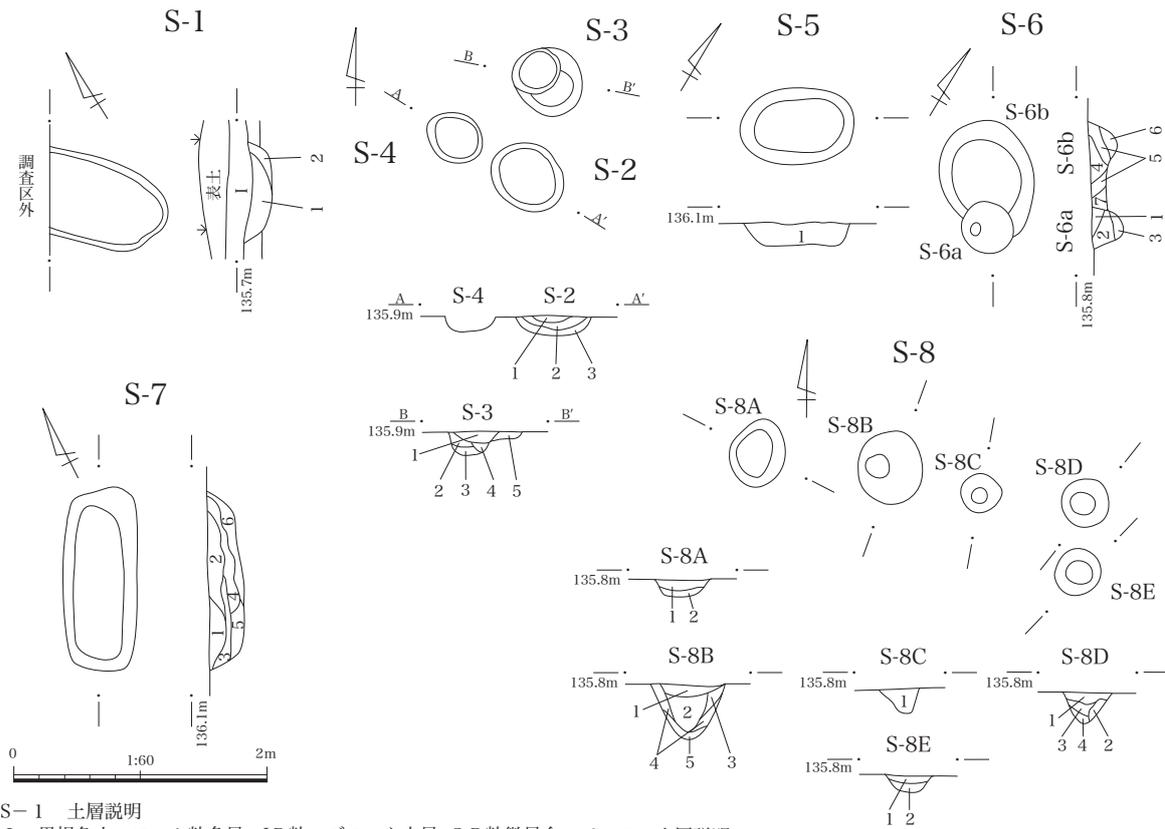
C-2 グリッド南に位置する。8A~8Dは30 cm前後の間隔で東西に並ぶ小ピットで、8Aは西端にある。長軸0.36 m、短軸0.31 m、長軸を南北に向ける楕円形で、確認面からの深さは0.08 m、浅い皿状をなす。覆土は上下2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-8B (第9図・図版五・六)

C-2 グリッド南に位置する。8A~8Dは30 cm前後の間隔で東西に並ぶ小ピットで、8Bは西から2番目にある。直径0.38 mの円形で、確認面からの深さは0.3 m、断面はU字形をなす。覆土は5層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-8C (第9図・図版五・六)

C-2 グリッド南に位置する。8A~8Dは30 cm前後の間隔で東西に並ぶ小ピットで、8Cは東から2番目にある。直径0.33 mの円形で、確認面からの深さは0.18 m、ゆるい傾斜で立ちあがる。覆土は単層、



- S-1 土層説明**
- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・ブロック少量、SP粒微量含む。かたくしまる。
 - 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
 - 2 黒褐色土 ローム粒・IP粒多量、SP粒少量含む。1より軟かい。
- S-2 土層説明**
- 1 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒多量含む。かたくしまる。
 - 2 暗褐色土 ローム粒多量、SP粒・IP粒少量含む。かたくしまる。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒少量含む。しまりあり。
- S-3 土層説明**
- 1 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒多量含む。粒子の混入は下方が多い。かたくしまる。
 - 2 黒褐色土 ローム粒・IP粒・ブロック・SP粒少量含む。かたくしまる。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
 - 4 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
 - 5 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒少量含む。かたくしまる。
- S-4**
セクション図なし
- S-5 土層説明**
- 1 暗褐色土 ローム粒・SP粒多量、IP粒少量含む。底面付近はSP粒微量含む。かたくしまる。
- S-6a 土層説明**
- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりややあり。
 - 2 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりやや弱い。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒少量、SP粒微量含む。しまり2より弱い。
- S-6b 土層説明**
- 4 暗褐色土 ローム粒・IP粒多量、SP粒少量含む。しまりややあり。
 - 5 明褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりやや弱い。
 - 6 明褐色土 5よりローム粒・SP粒多い。しまりあり。
 - 7 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒、SP粒少量含む。しまりあり。
- S-7 土層説明**
- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒・炭化材少量、SP粒微量含む。しまりあり。
 - 2 暗褐色土 ローム粒多量、炭化材少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
 - 3 暗褐色土 ローム粒・IP粒多量、SP粒少量含む。しまりあり。
 - 4 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒少量、SP粒微量含む。しまりやや弱い。
 - 5 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
 - 6 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
- S-8A 土層説明**
- 1 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒、IPブロック・SPブロック少量含む。かたくしまる。
 - 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、IPブロック・IP粒・SP粒少量含む。かたくしまる。
- S-8B 土層説明**
- 1 暗褐色土 ローム粒多量、SP粒少量含む。かたくしまる。
 - 2 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・IP粒・SP粒少量含む。かたくしまる。
 - 4 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・IP粒少量、SP粒微量含む。かたくしまる。
 - 5 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・IP粒・IPブロック少量、SP粒微量含む。しまりあり。
- S-8C 土層説明**
- 1 黒褐色土 IP粒・SP粒・SPブロック少量、ローム粒微量含む。かたくしまる。
- S-8D 土層説明**
- 1 黒褐色土 ローム粒多量、SP粒含む。かたくしまる。
 - 2 明褐色土 IP粒多量、ローム粒少量含む。かたくしまる。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
 - 4 明褐色土 ローム粒・IP粒多量含む。しまりあり。
- S-8E 土層説明**
- 1 黒褐色土 SPブロックやや多量、SP粒・IP粒少量含む。かたくしまる。
 - 2 明褐色土 ローム粒多量、IP粒少量含む。しまりあり。

第9図 遺構実測図(1)S-1~8

第3章 遺構と遺物

自然堆積である。出土遺物はない。

S-8D (第9図・図版五・六)

C-2グリッド南に位置する。8A~8Dは30cm前後の間隔で東西に並ぶ小ピットで、8Dは東端にある。直径0.4mの円形で、確認面からの深さは0.24m、断面はU字形をなす。覆土は4層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-8E (第9図・図版五・六)

C-2グリッド南に位置する。4基並んだ東端8Dの0.15m南にある。長軸0.4m、短軸0.36m、長軸を北東-南西に向けた円形で、8Dとほぼ同じ大きさである。確認面からの深さは0.12m、断面はゆるいU字形をなす。覆土は上下2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-9a・9b (第10図・図版六)

C-2グリッド北西に位置する。2基の重複で、楕円形と推定される土坑(9b)の西側を切って長楕円形土坑(9a)が作られる。9bの平面形や規模は不明であるが、9aは長軸3.24m、短軸1.3m、長軸をほぼ南北に向ける長楕円形である。確認面からの深さは9aが遺存部で0.13m、底面が平らな皿状をなす。9aは最も深い部分で0.43m、底面はやや凹凸があり、立ちあがりは北~西にかけて緩い傾斜を示す。覆土は、9aは11層、9bは2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物は縄文土器1点と石皿1点である。いずれも9aの最上層(第1層)で出土している。

S-10 (第10図・図版六)

D-2グリッド北に位置する。すぐ北には8A~8Eがある。長軸0.83m、短軸0.65m、長軸を北西-南東に向ける隅丸長方形である。確認面からの深さは0.26mで底面は平坦、断面形は逆台形をなす。覆土は、3層に分かれ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-11 (第10図・図版六)

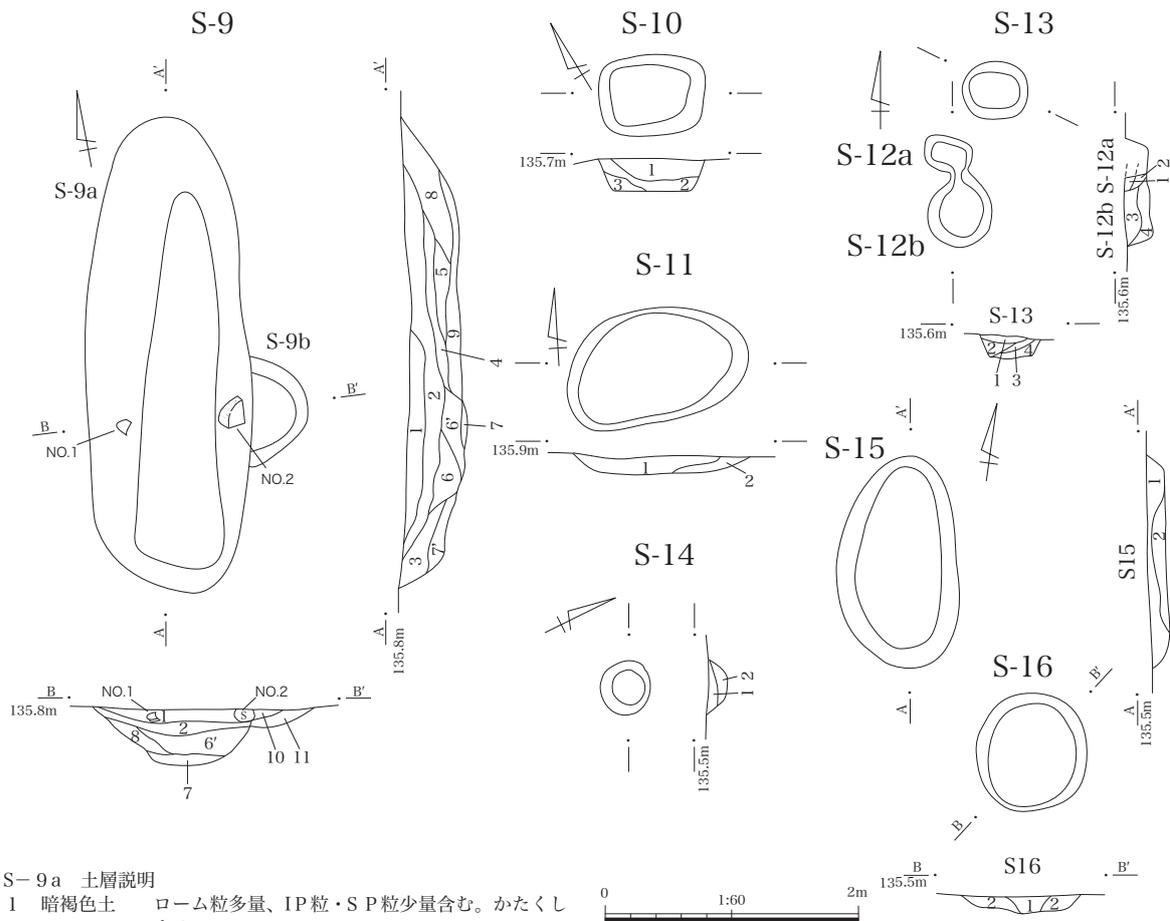
B-2グリッド南に位置する。長軸1.47m、短軸0.93m、主軸を東西方向に向ける不整な楕円形である。確認面からの深さは0.14mで、断面形は浅い皿状をなす。覆土2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-12a・12b (第10図・図版七)

C-3グリッド南西に位置する。北西0.2mにはS-13がある。2基の重複で、南側の円形土坑(12b)を切って北側の方形土坑(12a)が作られる。12aは長軸0.39m、短軸0.28m、東西に長軸をもつ長方形で、確認面からの深さは0.18m、底面は平坦で、断面形は逆台形をなす。12bは直径0.4mの円形で、確認面からの深さは0.2m、底面は平坦で緩い傾斜をもって立ちあがる。覆土はそれぞれ2層に分けられ、わずかな重複部の土層から、12aが新しいことがわかる。いずれも自然堆積である。出土遺物はない。

S-13 (第10図・図版七)

C-3グリッド南西に位置する。南西0.2mにはS-12がある。長軸0.5m、短軸0.48m、長軸を東西方向に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.19m、底面はやや凹凸がある。壁は傾斜をもって立ちあがる。覆土は4層に分けられる。自然堆積である。出土遺物はない。



S-9a 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。かたくし
まる。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒含む。しまり2より
やや弱い。
- 4 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒少量含む。かたくしまる。
- 5 暗褐色土 IP粒多量、ローム粒・SP粒やや少量含む。3より
ローム粒多い。かたくしまる。
- 6 暗褐色土 ローム粒・IP粒、IPブロック・SP粒少量含む。
かたくしまる。
- 6' 暗褐色土 6よりローム粒・IP粒多く含む。SP粒少量含む。
かたくしまる。
- 7 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・IPブロック、SP粒少量含む。
かたくしまる。
- 7' 暗褐色土 7よりローム粒・IP粒多く含む。SP粒少量含む。
かたくしまる。
- 8 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒やや多量含む。かたくし
まる。
- 9 暗黄褐色土 ローム粒・IP粒主体、SP粒少量含む。かたくしま
る。

S-9b 土層説明

- 10 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。かたくし
まる。
- 11 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒少量含む。かたくしまる。

S-10 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒多量、ロームブロック・I
Pブロック少量含む。かたくしまる。
- 2 暗褐色土 ローム粒・IP粒多量、IPブロック・SP粒少量含む。
しまり強い。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒多量、IPブロック・SP
ブロック少量含む。しまりあり。

S-11 土層説明

- 1 黒色土 ローム粒、IP粒少量、SP粒微量含む。しまりなし。
- 2 明褐色土 ローム粒・ロームブロック・IP粒、SP粒少量含む。
しまりやや弱い。

S-12a 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒・IP粒やや多量、SP粒少量含む。しまり
やや弱い。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・IPブロックやや多量、SP
粒少量含む。しまりあり。

S-12b 土層説明

- 3 暗褐色土 ローム粒・IP粒多量、IPブロック・SP粒少量含む。
しまりあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、IP粒・IPブロックやや多量、SP
粒少量含む。しまりやや弱い。

S-13 土層説明

- 1 黒褐色土 IP粒多量、IPブロック少量含む。しまり弱い。
ローム粒多量、IP粒・IPブロック・SP粒少量含む。
しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 ローム粒・IP粒・IPブロック・SP粒少量含む。
しまりやや弱い。
- 3 黒褐色土 ローム粒・IP粒・IPブロック・SP粒少量含む。
しまりやや弱い。
- 4 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒、IPブロック・SP粒少量含む。
しまりあり。

S-14 土層説明

- 1 明褐色土 ロームブロック多量、ローム粒やや多量、IP粒・
SP粒少量含む。しまりあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・SP粒微量
含む。しまりやや弱い。

S-15 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒・SP粒多量、IP粒少量含む。しまりやや
あり。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック・IPブロックやや多量、ローム粒・
IP粒・SP粒少量含む。しまりややあり。

S-16

- 1 暗褐色土 ローム粒・IP粒多量、SP粒少量含む。しまりあり。
根の可能性もあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、IP粒・IPブロック・SP粒少量含む。
しまりあり。

第10図 遺構実測図(2) S-9~16

第3章 遺構と遺物

S-14 (第10図・図版七)

D-3グリッド北に位置する。長軸 0.43 m、短軸 0.4 m、長軸を東西方向に向ける円形である。確認面からの深さは 0.15 m、断面形はゆるいU字形をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-15 (第10図・図版七)

D-3グリッド中央に位置する。南東 0.6 mに S-16がある。長軸 1.7 m、短軸 0.95 m、長軸を南北方向に向ける楕円形である。確認面からの深さは 0.15 m、断面形は浅い皿状を示す。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-16 (第10図・図版八)

D-3グリッド中央に位置する。北西 0.6 mに S-15がある。長軸 0.92 m、短軸 0.86 m、長軸を南北方向に向ける円形である。確認面からの深さは 0.13 m、断面形は浅い皿状を示す。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-17 (第11図・図版八)

C-3・D-3グリッド北側にまたがって位置する。北 2.6 mに S-18 Aがある。長軸 1.2 m、短軸 1.16 m、長軸を南北方向に向ける円形である。確認面からの深さは 0.16 m、断面形は浅い皿状を示す。覆土は3層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-18 A (第11図・図版八)

C-3グリッド南東に位置する。北東 0.2 mほどに S-18 Bがあり、間に攪乱を挟むが重複はしていない。長軸 1.06 m、短軸 0.92 m、長軸を北西-南東方向に向ける円形である。確認面からの深さは 0.16 m、断面形は浅い皿状を示す。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-18 B (第11図・図版八)

C-3グリッド南東に位置する。南西 0.2 mほどに S-18 Aがあり、間に攪乱を挟むが重複はしていない。長軸 1.2 m、短軸 0.94 m、長軸を北東-南西方向に向ける楕円形である。確認面からの深さは 0.12 m、断面形は浅い皿状を示す。覆土は3層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

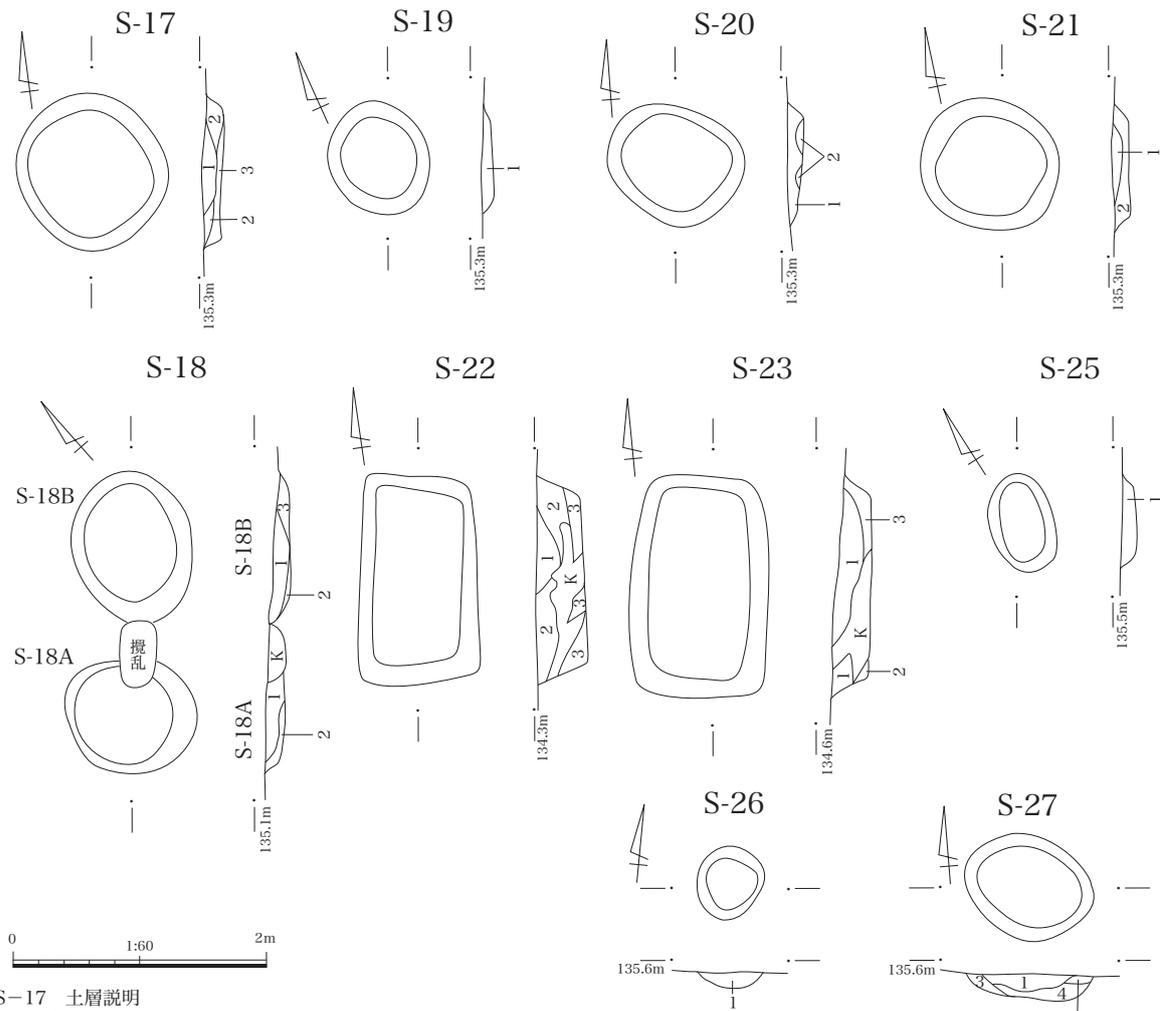
S-19 (第11図・図版八)

C-3・C-4グリッド北側にまたがって位置する。長軸 0.92 m、短軸 0.78 m、長軸をほぼ南北方向に向ける楕円形である。確認面からの深さは 0.1 m、断面形は浅い皿状を示す。覆土は単層で自然堆積である。出土遺物はない。

S-20 (第11図・図版九)

B-3・B-4グリッド南側にまたがって位置する。長軸 1.1 m、短軸 0.9 m、長軸をほぼ東西方向に向ける不整楕円形である。確認面からの深さは最も深い北側で 0.1 m、底面はやや傾斜をもち断面形は浅い皿状を示す。覆土は2層で自然堆積である。出土遺物はない。

S-21 (第11図・図版九)



S-17 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック・IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック多量、ローム粒、IP粒・SP粒微量含む。しまりやや弱い。

S-18A 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。

S-18B 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。かたくしまる。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・SP粒少量含む。かたくしまる。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロックやや多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。

S-19 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒少量、SP粒微量含む。かたくしまる。混入物は下位に多い。

S-20 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・IPブロック少量、SP粒微量含む。しまりやや弱い。

S-21 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・IPブロック少量、SP粒微量含む。しまりやや弱い。

S-22 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、IP粒少量、SP粒微量含む。1より色調薄い。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒主体、ロームブロック、SP粒微量含む。しまりあり。

S-23 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量、SP粒微量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。
- 3 明褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量含む。しまりあり。

S-25

- 1 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、SP粒・SPブロック少量、IP粒微量含む。しまりやや弱い。

S-26

- 1 黒色土 ローム粒・ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。かたくしまる。

S-27

- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒多量、SP粒少量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・IP粒少量、SP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 3 黒褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒主体、ロームブロック・IP粒少量、SP粒微量含む。しまりあり。

第11図 遺構実測図(3) S-17~27

第3章 遺構と遺物

B-4 グリッド西に位置する。直径 1.1 m の円形である。確認面からの深さは 0.14 m、底面は平坦で断面形は浅い皿状を示す。覆土は 2 層で自然堆積である。出土遺物はない。

S-22 (第 1 1 図・図版九)

A-4 グリッド南西に位置する。北東 2 m に同じような形、大きさの S-23 がある。長軸 1.64 m、短軸 0.94 m、長軸をほぼ南北に向ける長方形である。確認面からの深さは 0.38 m、底面は平坦で壁は斜めに立ちあがる。断面形は浅い皿状を示す。覆土は中ほどが木の根の攪乱を受けるが 3 層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-23 (第 1 1 図・図版九)

A-4・A-5 グリッド中央にまたがって位置する。南西 2 m に S-23 がある。長軸 1.78 m、短軸 1.1 m、長軸をほぼ南北に向ける長方形である。確認面からの深さは 0.32 m、底面は平坦で壁は斜めに立ちあがる。断面形は浅い皿状を示す。覆土は中ほどが木の根の攪乱を受けるが 3 層に分けられ、自然堆積である。出土遺物は覆土中から縄文土器小片が 1 点出土しているが、伴うものかは不明である。S-22 と S-23 は近接し、同様の平面形、規模、深さ、長軸方向を示しており、関連するものであろう。

S-25 (第 1 1 図・図版十)

D-3 グリッド中央やや西に位置する。長軸 0.76 m、短軸 0.51 m、長軸を北東-南西方向に向ける楕円形である。確認面からの深さは 0.1 m、底面は平坦で浅い皿状をなす。覆土は単層、自然堆積である。出土遺物はない。

S-26 (第 1 1 図・図版十)

E-3 グリッド西に位置する。西 1.5 m には S-27 がある。長軸 0.6 m、短軸 0.5 m、長軸をほぼ南北に向ける楕円形である。確認面からの深さは 0.1 m、断面形はゆるい U 字形をなす。覆土は単層、埋め戻しの可能性がある。出土遺物はない。

S-27 (第 1 1 図・図版十)

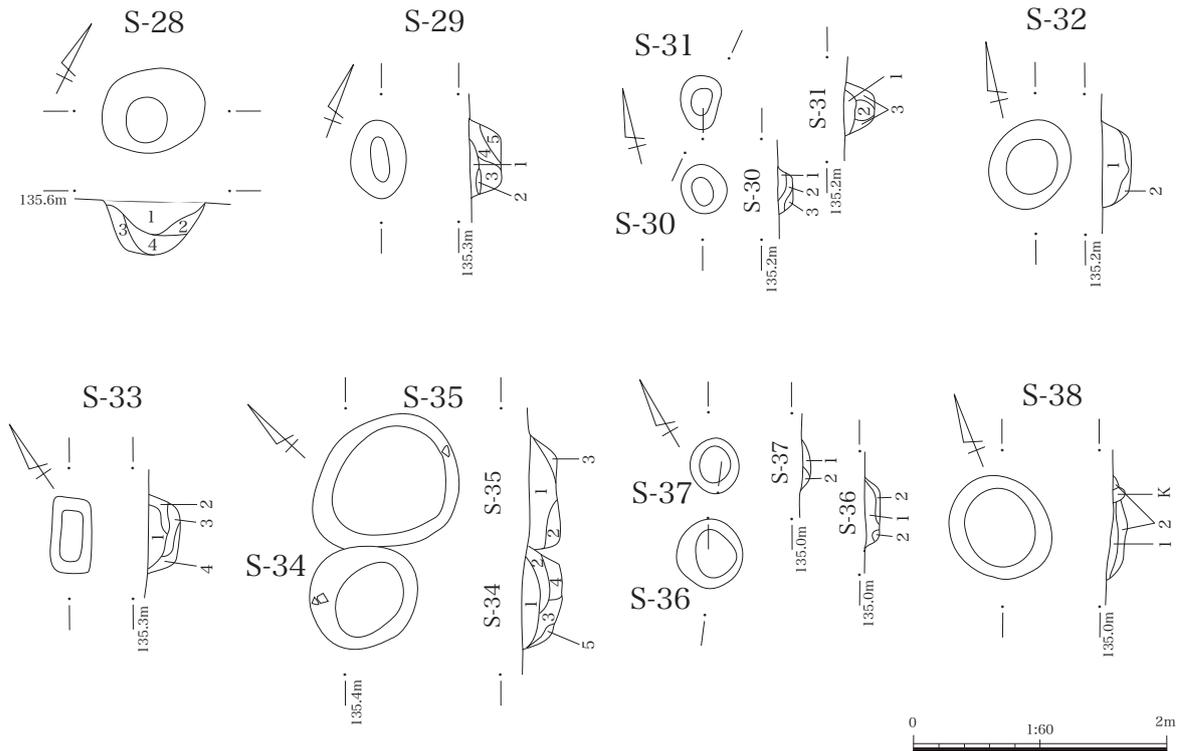
E-2 グリッド東に位置する。東 1.5 m には S-26 がある。長軸 1.04 m、短軸 0.72 m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは 0.22 m、断面形はゆるい U 字形をなす。覆土は 4 層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-28 (第 1 2 図・図版十・十一)

E-2 グリッド北東に位置する。南 3 m には S-27 がある。長軸 0.82 m、短軸 0.68 m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは 0.4 m、断面形は U 字形をなす。覆土は 4 層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-29 (第 1 2 図・図版十一)

E-3 グリッド中央に位置する。北東~南東 1 m には S-30~33 がある。長軸 0.6 m、短軸 0.42 m、長軸をほぼ北西-南東東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは 0.24 m、断面は逆台形を示す。覆土は 5 層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。



S-28 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒・IP粒多量、IPブロック少量、S P粒微量含む。しまりあり。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりあり。3に似る。

S-29 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒多量、S P粒少量、IP粒微量含む。しまりあり。
- 2 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、IP粒少量、S P粒微量含む。しまりあり。
- 3 黄褐色土 2よりローム多い。しまりあり。
- 4 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒少量、S P粒微量含む。しまりあり。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、IP粒微量含む。しまりあり。

S-30 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒多量含む。しまりあり。
- 2 明褐色土 ローム粒主体、ロームブロック少量含む。しまりやや弱い。
- 3 明褐色土 ローム粒主体、ロームブロック多量含む。しまりやや弱い。

S-31 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒やや多量、IP粒少量、S P粒微量含む。しまり強い。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック含む。しまりあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。しまりあり。

S-32 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒少量、IPブロック微量含む。しまりあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、IP粒微量含む。しまりあり。

S-33 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりやや弱い。

- 2 明褐色土 ローム多量、ロームブロック少量、IP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 3 明褐色土 ローム多量、ロームブロック少量、IP粒微量含む。しまりあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック含む。しまり強い。

S-34 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・S P粒少量、S Pブロック微量含む。かたくしまる。
- 2 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒少量、S P粒・S Pブロック微量含む。しまりややあり。
- 3 黒褐色土 IP粒やや多量、ローム粒、IP粒微量含む。しまりあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりややあり。
- 5 暗褐色土 ローム粒・IP粒多量、S P粒少量含む。しまりあり。

S-35 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・IPブロック・S P粒・S Pブロック少量含む。かたくしまる。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、IP粒・S P粒少量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒少量、S P粒微量含む。しまりあり。

S-36 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒やや多量、S P粒少量、IP粒微量含む。かたくしまる。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまりやや弱い。

S-37 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒やや多量、S P粒微量含む。かたくしまる。S-36の1に似る。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒微量含む。しまりあり。S-36の2に似る。

S-38 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、S P粒微量含む。かたくしまる。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、IP粒・S P粒微量含む。しまりあり。

第12図 遺構実測図(4) S-28~38

第3章 遺構と遺物

S-30 (第12図・図版十一)

E-3グリッド中央やや東に位置する。北0.3mにはS-31がある。長軸0.4m、短軸0.35m、長軸をほぼ南北に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.11m、断面はゆるいU字形をなす。覆土は3層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-31 (第12図・図版十一)

E-3グリッド中央やや東に位置する。南0.3mにはS-30が、北0.8mにはS-32がある。長軸0.4m、短軸0.3m、長軸を北東-南西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.28m、断面はU字形をなす。覆土は3層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-32 (第12図・図版十一・十二)

E-3グリッド中央やや東に位置する。南0.8mにはS-31が、北西0.8mにはS-33がある。長軸0.7m、短軸0.6m、長軸を北東-南西に向ける円形である。確認面からの深さは0.2m、断面はゆるいU字形をなす。覆土は2層、自然堆積である。出土遺物はない。

S-33 (第12図・図版十二)

E-3グリッド中央やや東に位置する。北東1mにはS-47が、南東0.8mにはS-32がある。長軸0.6m、短軸0.32m、長軸を北東-南西に向ける長方形である。確認面からの深さは0.24m、底面は北がやや深く、断面はゆるいU字形をなす。覆土は4層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-34 (第12図・図版十二)

F-2・F-3グリッド中央にまたがって位置する。北東にS-35がある。一部重複しており、S-35より新しい。長軸0.9m、短軸0.8m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.32m、断面はゆるいU字形をなす。覆土は5層に分けられ自然堆積である。第2層の堆積状況からS-35を切っているのがわかる。遺物は北西壁際、確認面の高さで縄文土器の口縁部片1点が出土している。

S-35 (第12図・図版十二)

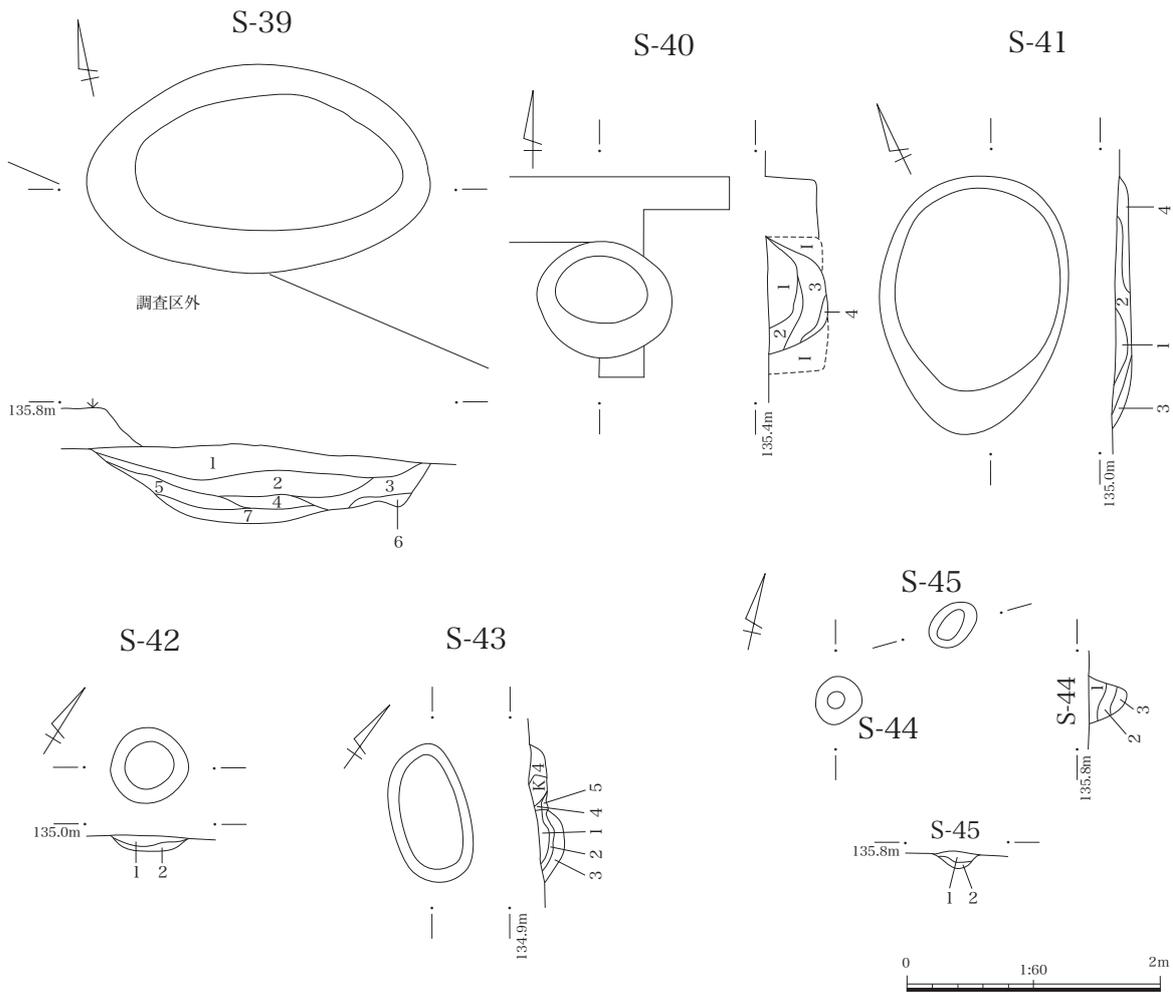
F-3グリッド西中央に位置する。南西にS-34がある。一部重複しており、S-34より古い。長軸1.26m、短軸1.06m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.22m、断面はゆるいU字形をなす。覆土は3層に分けられ自然堆積である。第1層南でS-34に切られているのがわかる。遺物は東壁際、確認面の高さで縄文土器の胴部片1点が出土している。

S-36 (第12図・図版十二・十三)

C-4グリッド南西に位置する。北東0.2mにはS-37がある。直径0.5mの円形で、確認面からの深さは0.12m、断面はゆるいU字形をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-37 (第12図・図版十三)

C-4グリッド南西に位置する。北東1mにはS-38が、南西0.2mにはS-36がある。直径0.4mの円形で、確認面からの深さは0.08m、浅い皿状をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。



S-39 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒少量、SP粒微量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 IP粒やや多量、ローム粒、SP粒少量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒多量、IPブロック少量含む。しまりあり。
- 4 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・IP粒・SP粒含む。かたくしまる。
- 5 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりやや弱い。
- 6 明褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
- 7 黄褐色土 ロームブロック・IPブロック主体、SP粒少量含む。しまりやや弱い。

S-40 土層説明

- 1 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・SP粒少量含む。
- 1 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒少量、SP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 ローム粒・SP粒少量、IP粒微量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒・IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。
- 4 明褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・SP粒少量含む。しまりあり。

S-41 土層説明

- 1 暗黄褐色土 ロームブロック主体、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 2 明褐色土 ローム粒やや多量、IP粒少量、SP粒微量含む。しまりあり。
- 3 明褐色土 ローム粒多量、SP粒微量含む。しまりあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。

S-42 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒多量含む。しまりあり。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりあり。

S-43 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。やや偏在する。しまりあり。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。しまりやや弱い。
- 4 明褐色土 ローム粒多量、SP粒微量含む。しまりあり。
- 5 黄褐色土 ローム粒主体。しまりやや弱い。

S-44 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック・IP粒・SP粒やや多量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・SP粒含む。しまり弱い。
- 3 明褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・SP粒少量含む。しまり弱い。

S-45 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム・IP粒・SP粒少量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗黄褐色土 IP粒主体、SP粒微量含む。しまりやや弱い。

第13図 遺構実測図(5) S-39~45

第3章 遺構と遺物

S-38 (第12図・図版十三)

C-4グリッド中央に位置する。南西0.2mにはS-37がある。長軸0.9m、短軸0.74m、長軸をほぼ南北に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.11m、底面はやや凹凸があり、浅い皿状をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-39 (第13図・図版十三)

F-2グリッド東に位置する。南東1mにはS-34がある。長軸2.72m、短軸1.68m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.62m、底面は中央がいくぶん窪み、断面はゆるいU字形をなす。覆土は7層に分けられ、自然堆積である。出土遺物は縄文土器4点が出土している。深鉢の頸部から胴部にかけての破片で、いずれも覆土上位の第1層からの出土である。

S-40 (第13区・図版十三・十四)

F-3グリッド北に位置する。長軸1.08m、短軸0.92m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.46m、断面はU字形をなす。覆土は4層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-41 (第13図・図版十四)

B-4グリッド北に位置する。長軸2.05m、短軸1.48m、長軸を北東-南西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.11m、底面は平坦で浅い皿状をなす。覆土は4層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-42 (第13図・図版十四)

B-4グリッド中央に位置する。直径0.6mの円形である。確認面からの深さは0.12m、浅い皿状をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-43 (第13図・図版十四)

D-4グリッド南西に位置する。長軸1.12m、短軸0.6m、長軸を北西-南東に向ける楕円形である。確認面からの深さは北側で0.12m、南側で0.2mと南側が一段深く掘られている。覆土は5層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-44 (第13図・図版十四)

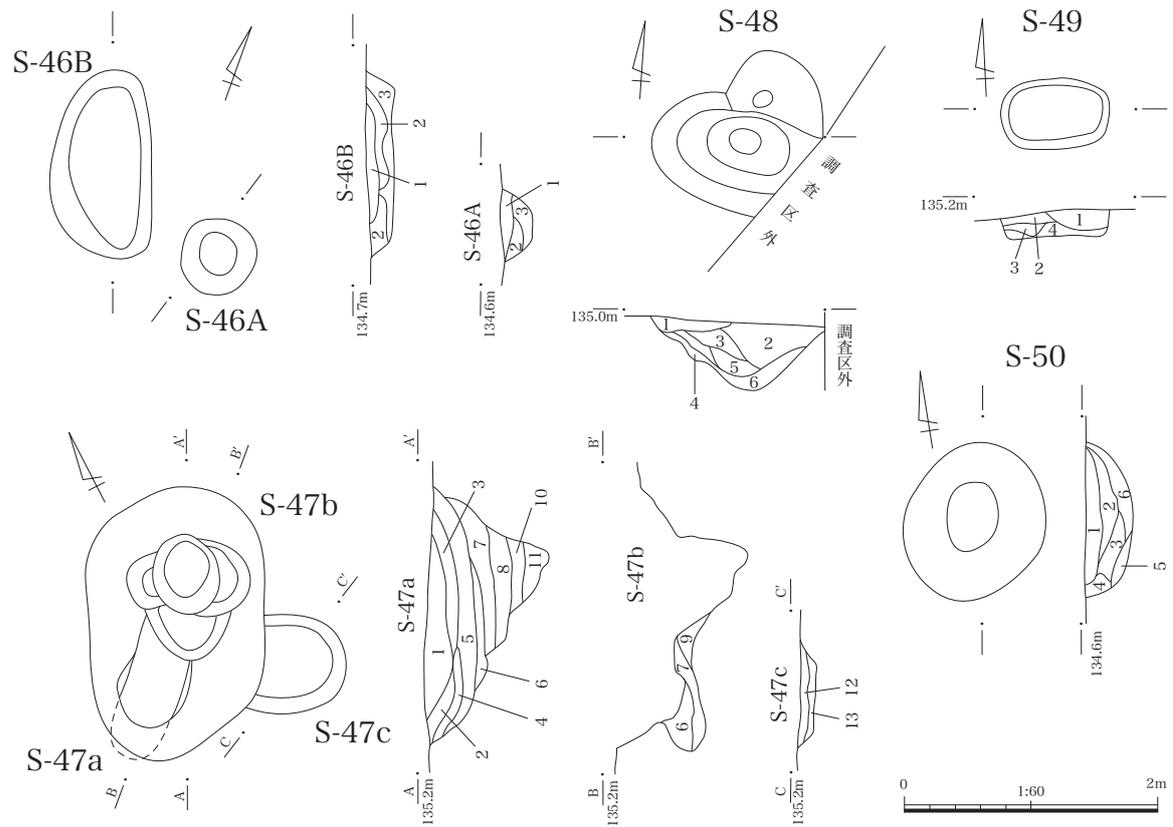
C-2グリッド北に位置する。北東0.7mにS-45がある。直径0.38mの円形である。確認面からの深さは0.3mで、断面はU字形をなす。覆土は3層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-45 (第13図・図版十四)

C-2グリッド北に位置する。南西0.7mにS-44がある。長軸0.4m、短軸0.32m、長軸を北東-南西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.1m、断面はゆるいU字形を示す。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-46 A (第14図・図版十五)

D-4グリッド中央に位置する。西0.2mにS-46 Bがある。直径0.6mの円形である。確認面からの深さは0.28m、断面はゆるいU字形を示す。覆土は3層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。



S-46A 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・IP粒少量含む。かたくしまる。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、IP粒微量含む。しまり強い。
- 3 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまり強い。

S-46B 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、IP粒・SP粒微量含む。しまり強い。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、SP粒微量含む。しまりあり。
- 3 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。しまりあり。

S-47a(1~9)・47b(10・11)・47c(12・13) 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・SP粒少量、炭化材粒含む。しまりあり。
- 2 明褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック・炭化材粒少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 3 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、SP粒・炭化材粒微量含む。しまりあり。2より色調濃い。
- 4 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、IP粒・SP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 7 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、SP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 8 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・SP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 9 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、SP粒微量含む。しまり弱い。

S-47b 土層説明

- 10 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、IP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 11 黄色土 ローム主体。しまりあり。地山の可能性あり。

S-47c 土層説明

- 12 褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。しまり強い。
- 13 明褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。しまり強い。

S-48 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量、SP粒微量含む。しまり弱い。
- 2 明褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 4 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。しまりあり。
- 5 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。しまりあり。
- 6 黄褐色土 ロームブロック多量、IP粒・SP粒微量含む。しまり強い。

S-49 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒、IP粒・SP粒微量含む。しまり強い。
- 2 明褐色土 ローム粒やや多量、IP粒少量、SP粒微量含む。しまりあり。
- 3 明褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック少量、SP粒微量含む。しまりやや弱い。
- 4 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。しまりやや弱い。

S-50 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒少量、IP粒・SP粒微量含む。かたくしまる。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、IP粒・SP粒微量含む。かたくしまる。1より色調濃い。
- 3 明褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック、IP粒・SP粒少量含む。かたくしまる。
- 4 明褐色土 ローム粒多量、SP粒少量含む。しまりあり。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、SP粒微量含む。かたくしまる。
- 6 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、SP粒微量含む。かたくしまる。

第14図 遺構実測図(6)S-46~50

第3章 遺構と遺物

S-46 B (第14図・図版十五)

D-4グリッド中央に位置する。東0.2 mにS-46 Aがある。長軸1.48 m、短軸0.8 m、長軸を北西-南東に向ける不整な楕円形である。確認面からの深さは0.22 m、底面はやや凹凸があり、壁の立ちあがりはゆるい傾斜をもつ。覆土は3層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-47a・47b・47c (第14図・図版十五)

E-3グリッド北東に位置する。北側で下半分のみ遺存する楕円形と推定される土坑(47b)、えぐり込みをもつ中央の大きな土坑(47a)、さらにはその南東の土坑(47c)の3基の重複と考えられる。

47aは長軸2.12 m、短軸1.38 m、長軸を北東-南西に向ける不整な楕円形である。確認面からの深さは0.65 m、底面はいくつか段があり深さが一定していない。土層断面図の第8層下面が本跡の底面と考える。中央から南西に向かって幅0.5 m、壁から外側に0.4 mほどのえぐり込みがみられる。覆土は第1~9層が47aに係わるもので、埋め戻しの可能性がある。47bは47aより古く構築されたもので、長軸0.6 m、短軸0.5 mの円形の底部付近が遺存していた。覆土は第10・11層である。47cは47aの東南にある。西側が47aと重複しており全体の形は窺えないが、長軸1 m程度、短軸0.8 mの楕円形と推定される。確認面からの深さは0.12 m、浅い皿状をなす。覆土は第12・13層で自然堆積である。47aとの新旧関係は不明である。出土遺物は土師器あるいはカワラケの小片2点と縄文土器1点である。後者を図示した。a・b・cのいずれに伴ったのかは明らかではない。

S-48 (第14図・図版十五)

E-3グリッド南東に位置する。東側が調査区外に延びるため全体の形状は不明である。長軸1.2 m以上、短軸0.8 m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形と推定される。確認面からの深さは0.6 mですり鉢状の断面形をなす。覆土は6層に分かれ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-49 (第14図・図版十五)

D-3グリッド南東に位置する。南西0.4 mにS-47がある。長軸0.84 m、短軸0.58 m、長軸をほぼ東西に向ける隅丸の長方形である。確認面からの深さは0.2 m、底面は平坦で断面は逆台形をなす。覆土は4層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-50 (第14図・図版十五・十六)

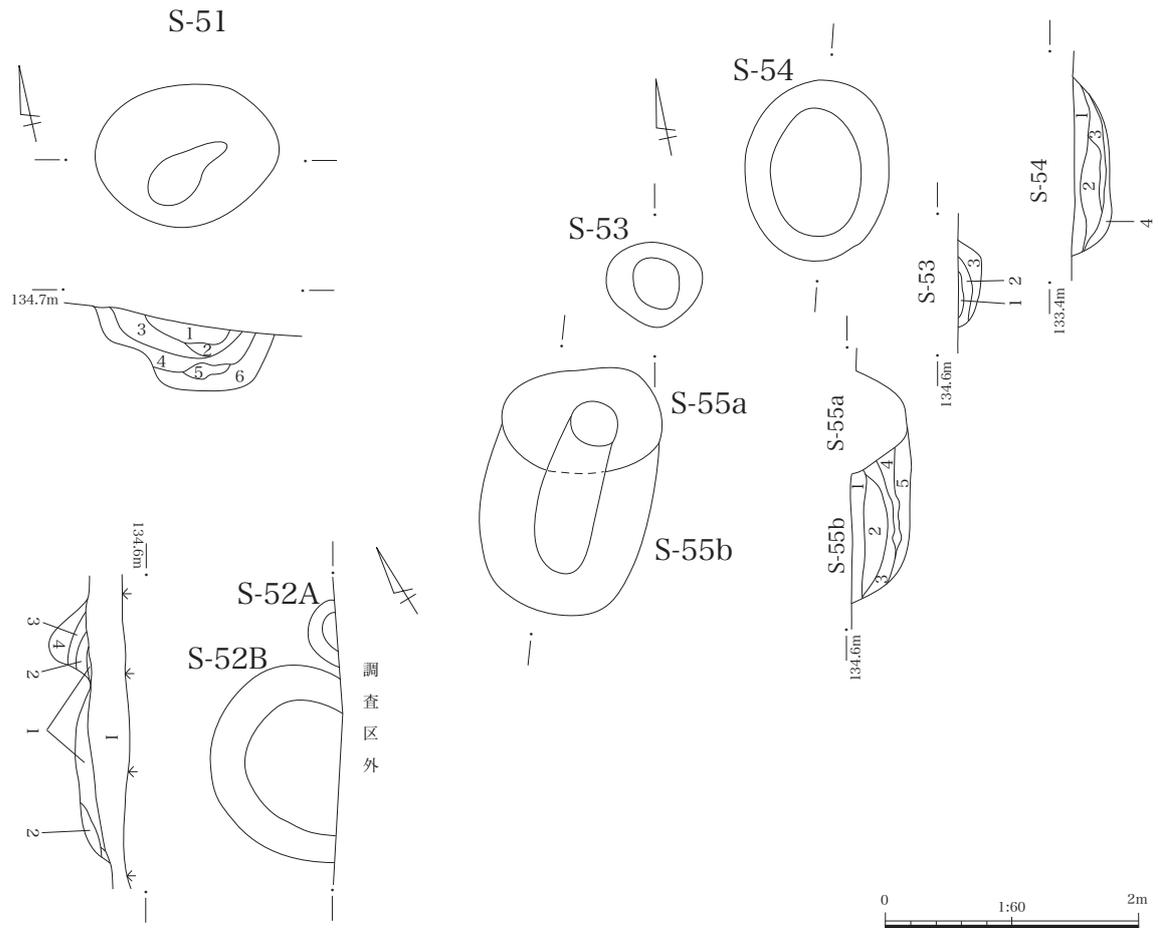
D-4グリッド中央やや北に位置する。南3 mにS-46・52がある。直径1.2 mの不整な円形である。確認面からの深さは0.4 m、断面はゆるいU字形をなす。覆土は6層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-51 (第15図・図版十六)

C-4グリッド中央やや北東に位置する。西2 mにS-38がある。長軸1.46 m、短軸1.11 m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは東側が深く0.52 m、西側は浅く0.32 mで、断面途中段となるがU字形をなす。覆土は6層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-52 A (第15図・図版十六)

D-4グリッド中央に位置する。南に隣接してS-52 Bがあるが重複はしていない。1/3ほどが調査区外に延びるため全体の形状や規模は不明であるが、調査部分から判断して0.5 m前後の楕円形と推定される。



S-51 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、S P粒少量含む。しまりあり。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、S P粒少量含む。しまりあり。
- 3 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりあり。
- 4 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりあり。
- 5 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、S P粒少量含む。しまりあり。
- 6 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、S P粒少量含む。しまりあり。

S-52A 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・IPブロック少量、S P粒微量含む。かたくしまる。
- 1 暗褐色土 ローム粒・IP粒・S P粒やや多量含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・S P粒少量含む。しまり弱い。
- 3 暗褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・S P粒少量含む。しまり弱い。2より色調濃い。
- 4 暗橙褐色土 ローム粒・IP粒やや多量、S P粒少量含む。しまりなし。

S-52B 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・IPブロック少量、S P粒微量含む。かたくしまる。
- 1 暗褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・S P粒少量含む。下位にロームブロック含む。しまり強い。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、S P粒微量含む。かたくしまる。

S-53 土層説明

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、S P粒微量含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックやや多量、IP粒・S P粒微量含む。しまりあり。
- 3 暗黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、S P粒微量含む。しまりあり。

S-54 土層説明

- 1 明褐色土 ローム粒多量、ロームブロックやや多量、IP粒少量、S P粒微量含む。しまり強い。
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックやや多量、IP粒・S P粒微量含む。しまり強い。
- 3 明褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、IP粒・S P粒微量含む。しまり強い。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、S P粒微量含む。しまり強い。

S-55b 土層説明 (55aのセクションはなし)

- 1 暗褐色土 ローム粒少量、S P粒微量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多量、ロームブロック・S P粒微量含む。しまりやや強い。
- 3 暗灰褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、S P粒微量含む。しまり強い。
- 4 暗灰褐色土 ローム粒・ロームブロックやや多量含む。しまりやや強い。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック多量含む。しまりやや強い。

第15図 遺構実測図(7)S-51~55

第3章 遺構と遺物

確認面からの深さは0.3 m、断面はU字形をなす。覆土は4層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-52 B (第15図・図版十六)

D-4グリッド中央に位置する。北に隣接してS-52 Aがあるが重複はしていない。大部分が調査区外に延びるため全体の形状や規模は不明であるが、調査部分から判断して長軸をほぼ南部区に向けた1.6 m前後の楕円形と推定される。確認面からの深さは0.12 m、浅い皿状をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-53 (第15図)

B-4グリッド南東に位置する。東0.5 mにS-54、南西0.5 mにS-55がある。長軸0.77 m、短軸0.7 m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは北側が深く0.2 m、南に向かって浅くなる。断面はゆるいU字形をなす。覆土は3層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-54 (第15図・図版十六)

B-4グリッド東に位置する。西0.5 mにS-53がある。これより東には遺構は存在しない。長軸1.42 m、短軸0.7 m、長軸を北東-南西に向ける楕円形である。確認面からの深さは南側が深く0.3 m、北に向かって浅くなる。断面はゆるいU字形をなす。覆土は4層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-55a・55b (第15図)

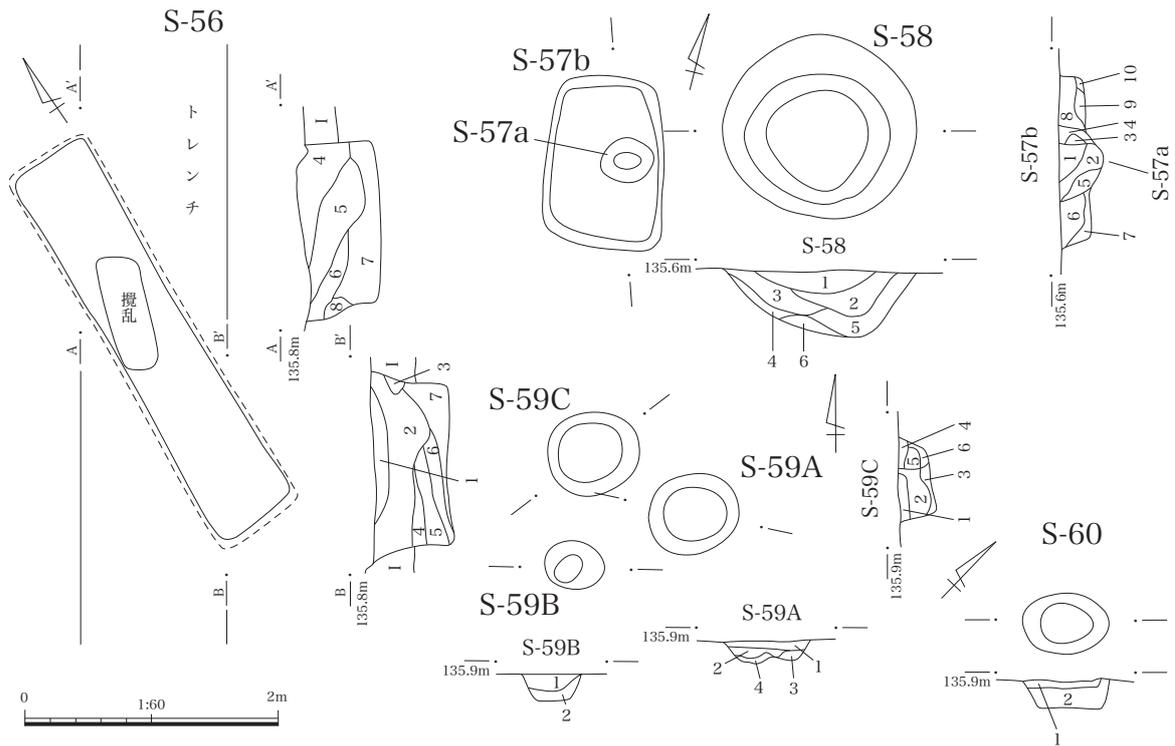
B-4グリッド北東に位置する。北側の楕円形の土坑(55a)と、南側の大きな楕円形土坑(55b)の2基の重複である。55aは長軸1.26 m、短軸0.8 m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.45 m、断面はゆるいU字形をしめす。覆土の詳細は不明であるが、55bを切って造られている。55bは北側を55aに壊されているが、長軸推定で1.9 m前後、短軸1.33 m、長軸を北東-南西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.49 m、断面形はU字形をしめす。覆土は5層で自然堆積である。55a、55bともに出土遺物はない。

S-56 (第16図・図版十六)

B-2・B-3・C-2・C-3グリッドにまたがって位置する。東1.5 mにS-57がある。この遺構は県教委文化財課の試掘調査で確認されていたものである(T-3内)。長軸3.3 m、短軸0.6 m、長軸を南北に向ける長方形である。確認面からの深さは0.6 m、壁はほぼ垂直に立ちあがり、断面は箱形をなすが、底面が心持ちオーバーハングして上面より広い。断面はゆるいU字形をなす。覆土は8層に分けられ、埋め戻しの可能性がある。出土遺物はない。

S-57a・57b (第16図・図版十六)

B-3・C-3グリッドの西側にまたがって位置する。西1.5 mにS-56、東0.5 mにS-58がある。長方形土坑(57b)の中に円形土坑(57a)が作られており、2基の重複と考えられる。57aは長軸0.42 m、短軸0.32 m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.34 mで、57bの底面より深く掘られている。断面はU字形をなす。覆土は5層に分けられ、自然堆積である。57a・57b通しのセクションでは57bを57aが切っていることがわかる。出土遺物はない。57bは長軸1.34 m、短軸0.7~0.9 m、長軸をほぼ南北に向ける長方形であるが、北辺より南辺が約0.2 m長く台形を示す。確認面からの深さは0.24 m、自然堆積である。底面は平坦、断面は逆台形である。上記のとおり57aに切られている。覆土は



S-56 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒、S P粒少量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒やや多量、ロームブロック・IPブロック少量含む。しまりやや弱い。
- 3 淡黄褐色土 S P粒多量、ローム粒・ロームブロック少量、IP粒少量含む。かたくしまる。
- 4 暗褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりやや弱い。
- 5 黒褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりやや弱い。
- 6 黒褐色土 S P粒やや多量、ローム粒、IP粒少量含む。しまりやや弱い。
- 7 暗黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量、IP粒・S P粒微量含む。しまり弱い。
- 8 暗黄褐色土 S P粒主体、ローム粒・IP粒少量含む。かたくしまる。

S-57a 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりややあり。
- 2 暗褐色土 ローム粒やや多量、IP粒少量、S P粒微量含む。しまりあり。
- 3 黒褐色土 ローム粒やや多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりあり。
- 4 暗橙褐色土 ローム粒・IP粒やや多量含む。しまりやや弱い。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック・IP粒少量含む。しまりあり。

S-57b 土層説明

- 6 黒褐色土 ローム粒・IP粒やや多量、S P粒少量含む。しまりやや弱い。
- 7 暗橙褐色土 ローム粒多量、IP粒やや多量、S P粒微量含む。しまりあり。
- 8 黒褐色土 ローム粒・IP粒・S P粒少量含む。S P粒は上位に多い。しまりあり。
- 9 暗褐色土 ローム粒やや多量、IP粒少量、S P粒微量含む。しまりやや弱い。
- 10 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック、IP粒・S P粒少量含む。しまりあり。

S-58 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒少量、S P粒微量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗橙褐色土 IP粒・IPブロック主体、ローム粒・S P粒少量含む。かたくしまる。

- 2 淡黄褐色土 ロームブロック主体、IPブロック・S P粒含む。しまりやや弱い。
- 3 黒褐色土 ローム粒、IP粒・S P粒少量含む。しまりやや弱い。
- 4 暗橙褐色土 IP粒多量、IPブロック・S P粒少量含む。しまり弱い。
- 5 黒褐色土 IP粒・S P粒多量含む。しまりやや弱い。
- 6 淡黄褐色土 ロームブロック主体、IP粒含む。しまり弱い。

S-59A 土層説明

- 1 黒褐色土 IP粒やや多量、ローム粒・S P粒少量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・IP粒少量、S P粒微量含む。しまりやや弱い。
- 3 明褐色土 ローム粒多量、IP粒やや多量、S P粒微量含む。しまりあり。
- 4 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体、IP粒少量、S P粒微量含む。しまりやや弱い。

S-59B 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒少量含む。しまりややあり。
- 2 明褐色土 ローム粒多量、IP粒やや多量、S P粒少量含む。1よりしまりあり。

S-59C 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、S P粒少量、ロームブロック・IP粒微量含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 ローム粒・IP粒多量、S P粒少量、IPブロック微量含む。しまりあり。
- 3 暗橙褐色土 IP粒・IPブロック主体、ローム粒少量、S P粒微量含む。しまりあり。
- 4 黒褐色土 ローム粒多量、IP粒・S P粒少量、IPブロック微量含む。しまりあり。
- 5 暗橙褐色土 ローム粒・IP粒多量、IPブロック・S P粒少量含む。しまりあり。
- 6 暗橙褐色土 IP粒・IPブロック主体、ローム粒少量、S P粒微量含む。かたくしまる。

S-60 土層説明

- 1 黒褐色土 ローム粒・IP粒やや多量、S P粒少量含む。かたくしまる。
- 2 暗橙褐色土 IP粒・IPブロック主体、ローム粒・S P粒少量含む。かたくしまる。

第16図 遺構実測図(8) S-56~60

5層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-58 (第16図)

B-3グリッド南に位置する。西0.5mにS-57がある。長軸1.58m、短軸1.48m、長軸をほぼ東西に向ける楕円形である。確認面からの深さは東側が深く0.55m、西に向かうゆるい傾斜で立ちあがる。断面は非対称なU字形をなす。覆土は6層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-59 A (第16図・図版十七)

B-2グリッド中央に位置する。59A～59Cは30cm前後の間隔で3方向に並ぶピットで、北西に59B、南西に59Cがある。直径0.7mの円形で、確認面からの深さは0.18m、底面は東側が深い。覆土は4層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-59 B (第16図・図版十七)

B-2グリッド中央に位置する。59A～59Cは30cm前後の間隔で3方向に並ぶピットで、北東に59A、北に59Cがある。長軸0.5m、短軸0.4mの楕円形で、確認面からの深さは0.22m、断面は逆台形をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

S-59 C (第16図・図版十七)

B-2グリッド中央に位置する。59A～59Cは30cm前後の間隔で3方向に並ぶピットで、南に59B、南東に59Aがある。直径0.7mの円形で、確認面からの深さは0.3m、断面は逆台形をなす。覆土は6層に分けられる。東側の第1～3層はU字形に堆積がみられ、西側の第4～6層を切っている様子が窺えることから2基の重複とも考えられる。出土遺物はない。

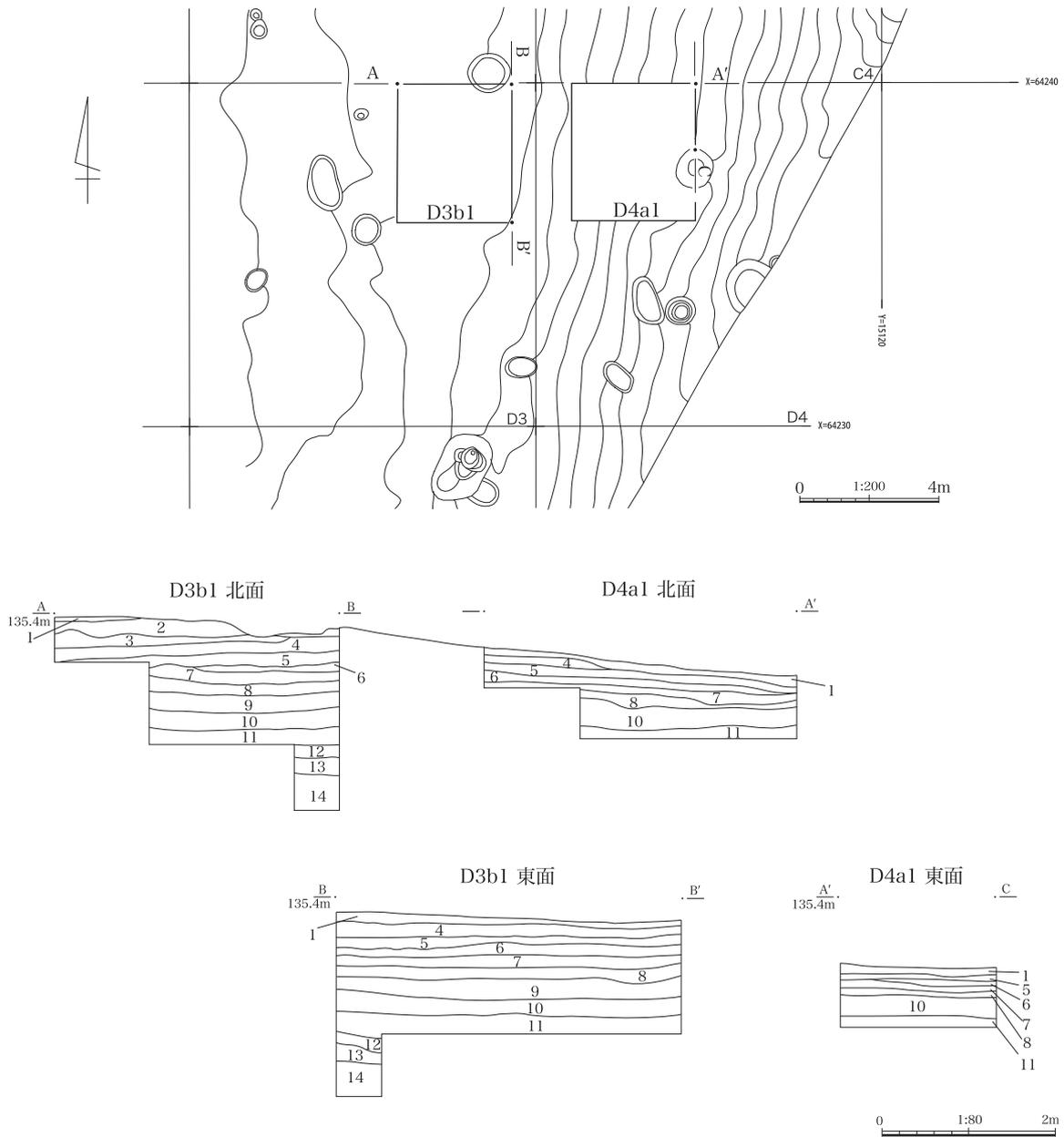
S-60 (第16図・図版十七)

B-2グリッド南西に位置する。北東1mにはS-59A・59B・59Cがある。長軸0.7m、短軸0.5m、長軸を北東-南西に向ける楕円形である。確認面からの深さは0.2m、断面は逆台形をなす。覆土は2層に分けられ、自然堆積である。出土遺物はない。

(2) 旧石器時代の調査区 (第17図・図版十七)

遺構確認作業中に、D-4グリッドから旧石器時代に比定される石器が確認されたため、その周辺を調査した。対象はD-3グリッドの北東部3.5m×4mとD-4グリッドの北西部4m四方(D3b1・D4a1)である。平坦部から斜面にかかる部分である。両グリッドとも約1.5m(暗色帯の直下、第12層)まで掘り下げたが、D-3グリッドで0.5～2cm大の自然石が16点、D-4グリッドで同じく26点出土したのみで、人工的な石器や関連した剥片などは認められなかった。一部土層図作成のため鹿沼軽石層(第14層)まで確認し、調査を終了した。

ここでは土層の概要についてのみ記しておく。第1層-七本桜軽石と一部今市軽石が混じった層、第2層-今市軽石の主体の層、第3～6層-やや暗い黄色でいわゆるソフトローム、第7・8層-明るい黄色で硬質のローム、第9・10層-いわゆる暗色帯、第11～13層-やや暗い黄色で硬質のローム、第14層-鹿沼軽石主体の層である。なお暗色帯は9層が漸移層であるが、平坦なD-3グリッドではみられるが、斜面のD-4グリッドでは認められない。詳細はセクション図を参照されたい。



旧石器時代調査用深掘土層説明

- | | | | |
|---------|---------------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒・ロームブロックやや多量、S P粒・IP粒少量含む。かたくしまる。 | 7 黄褐色土 | いわゆるハードローム層。しまり強い。8より硬い。 |
| 2 暗橙褐色土 | IP主体層。IP粒・ロームブロック・S P粒少量含む。かたくしまる。 | 8 黄褐色土 | いわゆるハードローム層。7より軟らかい。 |
| 3 暗黄褐色土 | ローム層。IP粒・S P粒少量、灰白色の粘土状ブロック含む。かたくしまる。 | 9 暗灰黄褐色土 | 暗色帯漸移層。8のロームブロックを含む。しまり強い。 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム層。IP粒・IPブロック少量、S P粒微量含む。しまり強い。 | 10 暗灰褐色土 | 暗色帯層。しまり強い。 |
| 5 暗黄褐色土 | いわゆるソフトローム層。しまり強い。6より硬い。 | 11 灰黄褐色土 | かたくしまる。 |
| 6 暗黄褐色土 | いわゆるソフトローム層。しまり強い。5より軟らかい。 | 12 暗灰黄色土 | かたくしまる。 |
| | | 13 暗灰黄色土 | 非常にかたくしまる。 |
| | | 14 黄色土 | K P層。 |

第17図 旧石器時代の調査区と土層図

(3) 縄文時代の精査区

調査区中央の最も高い平坦面（A-2、B-1～3グリッド）では黒色土に縄文土器が出土したために、ローム層まで5～10 cm精査したが、小片がわずかに出土したのみで図示しうるものはなかった。

(4) 遺構出土の遺物

本遺跡で遺構から出土した遺物は全部で13点である。遺構の項でも述べたが、S-9で土器1点・石器1点、S-23、34、35で土器1点、S-39で土器5点、S-47で土器3点である。

S-9a・9b（第18図25、29・図版十八）

25は胴部下半の破片で内外面無文。外面ナデ、内面はミガキにより平滑化する。29は石皿。全体の約半分を欠損する。表面（向かって左側）は中央がわずかに窪む皿面、裏面は多孔面である。表面はいくつか窪む箇所もあるが、裏面と比べると浅めで意識的なものではない。裏面の孔は20数個認められ直径1～1.5 cm、深さは0.5～1 cmである。側面は特に研磨などの痕跡はない。一部側面から正面にかけて被熱の可能性がある。長径19 cm以上、短径21.5 cm、厚さ13 cm。重さ7.2 kg、石材は安山岩か。25・29ともに9aからの出土である。

S-23（第18図1・図版十八）

1は撚糸文が施される土器で白色粒を多く含む。内面はザラつく。覆土中の出土である。

S-34（第18図5・図版十八）

5は内彎する波状口縁である。口縁直下に交互刺突が施され、その下にはS字状の沈線文やヘラ先による連続刺突文が縦横に巡る。胎土には雲母が含まれる。出土位置は西壁際、確認面の高さである。

S-35（第18図8・図版十八）

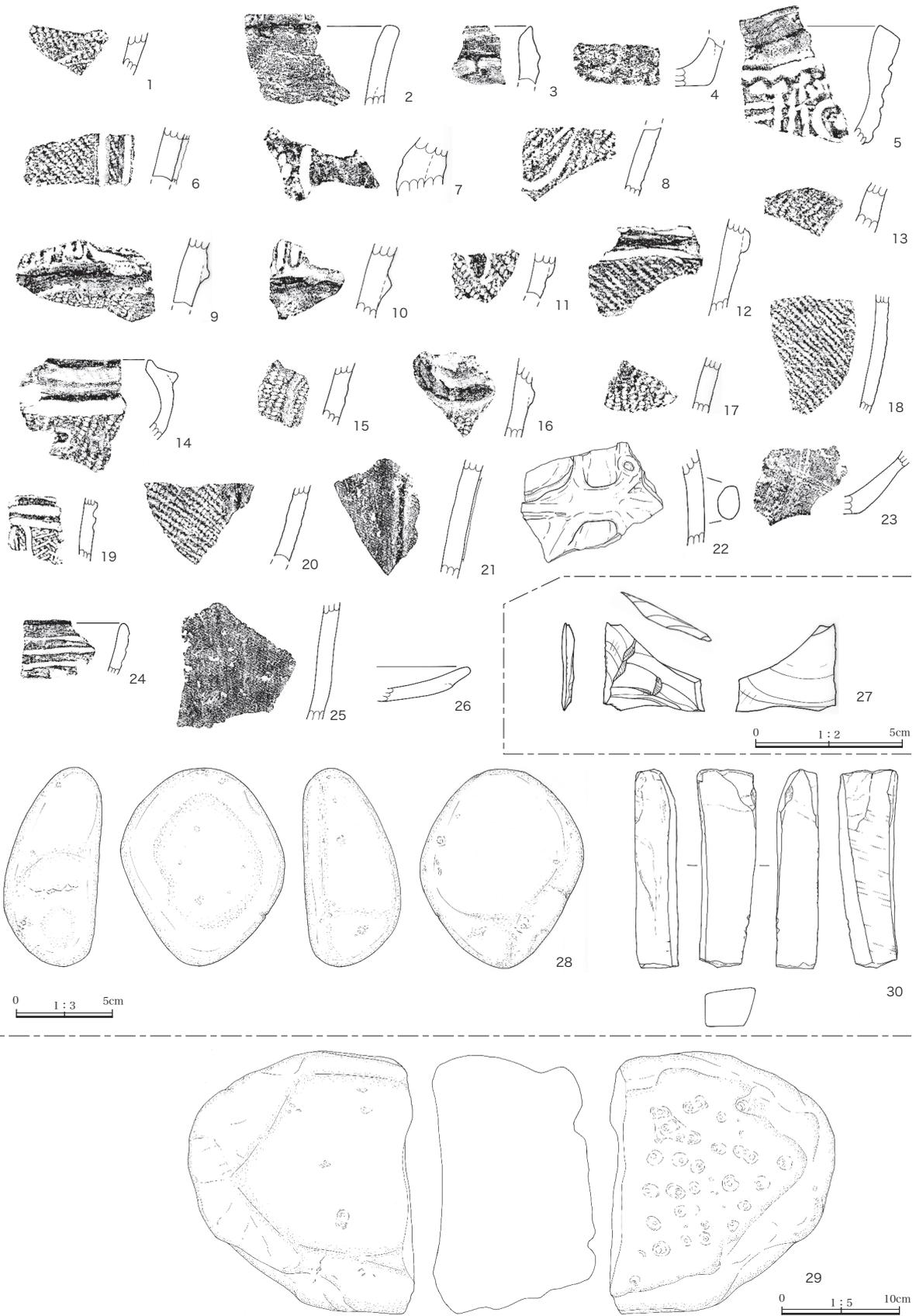
8は胴部の資料。LR地文にヘラで曲線文が施される。出土位置は東壁際、確認面の高さである。

S-39（第18図6・9～11・図版十八）

土器が5点出土している。4点を図示した。6は胴部片。縦に隆帯を貼り付け両側に沈線を配し、その後RLが縦位に施文される。縄文は隆帯上にも及ぶ。雲母や石英粒を含む。9・10は同一個体であろう。頸部から胴部へ移行する部分で、断面三角形の隆帯で区画され、上部にはヘラによる区画文懸垂文、胴部はRLが縦位に施文される。11も胴部片。RL施文後垂下する隆帯を貼付する。これらは覆土の第1層から出土している。図示しなかったものは土師器あるいはそれ以降の土師質の無文土器片で、覆土の中位からの出土である。

S-47（第18図7・図版十八）

土器3点のうち1点を図示した。7は波状口縁の頂部付近であろうか。縦の沈線と左側に刺突文がみえる。雲母や石英粒を含む。ほかの2点は無文の小破片で土師器かそれ以降のものであろう。

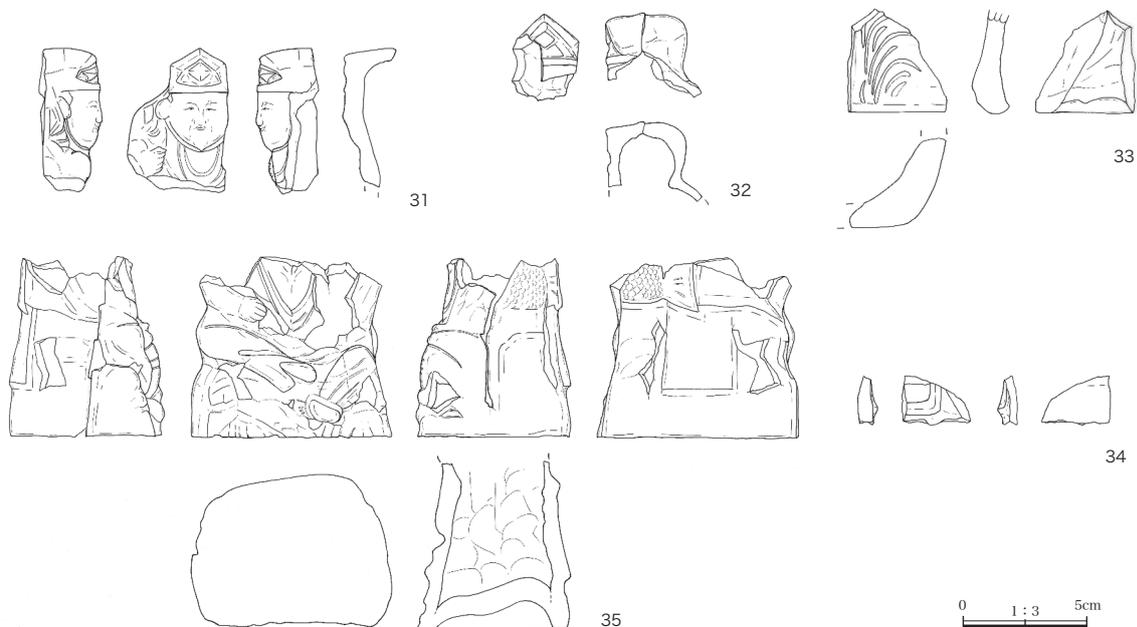


第18図 遺物実測図(1) 縄文土器・石器

(5) 遺構外出土の遺物 (第18・19図・図版十八~二十)

遺構外出土遺物はグリッド単位で取りあげた。遺物が認められたグリッドはA' - 3、A - 3・4、B - 1・2、C - 2・3、D - 2、F - 2・3で、約70点ある。このうちA' - 3南側では土人形やカワラケが集中して出土している。土人形は破片の状態であるが、4~5個体分である。カワラケはいずれも1cm前後の小片が多く、図示はできなかった。以下、掲載した遺物について略述する(第18・19図・図版十八・十九・二十)。

2は深鉢の口縁部。無文で内外面とも小口状工具で整形した痕跡がみられる。胎土には繊維を含んでいる。A - 4出土。3は口縁部。薄い隆線が縦、横に認められる。雲母を含む。A' - 4出土。4は底部資料。外面は無文でざらつく。雲母や石英粒を多く含む。F - 3出土。12は頸部から胴部にかけての資料。隆帯を貼り付け胴部にLRを縦に施文し、隆帯の上下に沈線を引く。A - 3出土。13はRLの縦位施文である。D - 2出土。14はキャリパー形を呈する口縁部の資料。口縁直下に隆帯を貼り付け以下はRLを縦位に施文する。一部に貼りつけ隆帯がみられる。F - 2出土。15は地文にRLを斜位に施文、垂下する沈線が一部みられる。16は曲線の隆帯がつけられる。縦位に施文したRLがみえる。ともにF - 3出土。17はRLが縦位に、18は横位にそれぞれ施文されている。19は胴部片。縦、横線の沈線と重層する山形文が描かれる。ともに出土位置は不明である。20は胴部片。RLの縄文と薄い縦の隆帯、その両側はナデで整形されている。21も胴部片。無文で薄い縦の隆帯、その両側はナデで整形されている。20・21とも石英粒を多く含む。A' - 3からの出土である。22は横位の橋状把手が付く胴部の資料。注口土器であろう。把手の左側に曲線、右側に刺突がみられる。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。23は底部で文様はない。22・23はC - 2出土。24は浅鉢の口縁部。横線文が現状で4本みられる。内面はミガキにより平滑化される。出土位置は不明。



第19図 遺物実測図(2) 土人形

26は土師器の杯あるいは蓋か。出土位置は不明である。

31～35は土人形（素焼きの人形）である。A'－3からの出土。31は顔と右手付近が残る。柔和な表情の顔には口髭と顎鬚がみえる。頭には頭巾を被り、右手は拳を握る。耳の脇には丸い玉状のものがあるが、耳たぶであろうか。襟元の特徴から衣装は狩衣と思われる。遺存部が体の前半分できれいに剥がれており、内面には指による押圧痕が強く残ることから、型抜きで作られたと考えられる。残存高5.5cm、明褐色。32は頭部である。31と同様の頭巾である。前面と後面で貼り合わせた状況がわかる。頭部の幅3.1cm、暗褐色。35は概ね下半身が残る。右手は拳を握り、足は半跏座のような組み方が見える。左後方には鱗と尾鱗の表現がみえ魚を抱えている。作りは31・32同様型抜きで、前半分と後半分を別に作り中空で貼り合わせているが、繋ぎ目は十分に消されていない。底面は粘土で塞いでおり上げ底状をなす。体部内面や底部外面には強い押圧痕が残る。残存高7cm、最大幅8cm、赤褐色。33・34は小破片で全体を復元できない。31・32・35は衣装、しぐさなどが共通し、同種のものであろう。右手の握りは竿を持つと考えれば、左に抱えた魚は鯛であり、この人形は恵比寿と判断される。

27～30は石器である。27は石刃か。縦長の剥片を素材とし、上部、左側、下部の順で剥離し、鋭利な面を作り出す。表面の左側は加工はみられないものの、使用の痕跡を留める。長さは現存で3.0cm、幅は3.2cm、厚さは0.5mm。石材は暗褐色をなす珪質頁岩である。D－4出土。わずかに1点の資料のみであるが旧石器時代のものであろう。28は磨石。長さ10.5cm、幅8.5cm、厚さ5cmの楕円形で、両面の一部に平滑な面を残す。重さ522.2g。安山岩か。30は砥石。下部を欠損する。断面四角形で全面使用の痕跡が顕著に認められる。長さ現存で10cm、幅は最大2.8cm、最小1.2cm。厚さ1.6cm。重さ90.2g。時期は不明である。

以上の遺物は、1が縄文早期の撚糸文系土器群、2が同じく早期の条痕文系土器群に含まれる。3～7は縄文中期前半阿玉台式で、3・4は前半、5～7が後半であろう。8～18は中期後半加曽利EⅠ式、19は加曽利EⅡ式、20・21が加曽利EⅣ式に比定される。22～25は後期初頭堀之内1～2式に位置づけられる。26は古代で、ほかに図示しなかったが、土師器杯と須恵器杯の小片を各1点確認している。

31～35は県内では類例に乏しく時期を明確にしえないが、宇都宮市平出免の内台遺跡で一辺10mの方形の塚から、カワラケ、内耳土器、陶磁器、銅銭、鉄銭など多様な遺物に混じって同様の素焼きの人形（恵比寿、大黒など）が出土している。時期は16世紀後半代から近世、あるいは近代初頭までとされる（註1）。本遺跡でも出土地点周辺でカワラケが6点出土しているが、指の先ほどの小片で復元はむずかしく、時期は絞れない。江戸の遺跡では17世紀中・後葉になって人形が多く出土するようになり、本例のような恵比寿、大黒など民間信仰に係わるものが多いという（註2）。これらを参考にすれば、本遺跡出土の土人形は近世以降としておきたい。

註1 三輪孝幸（2010）『平出免の内台遺跡』宇都宮市教育委員会

註2 江戸遺跡研究会編（2001）『図説江戸考古学研究事典』柏書房

第4章 まとめ

大塚遺跡の調査では、旧石器時代、縄文時代、さらに近世以降にかけての遺構と遺物が出土している。遺構は土坑が主体であったが、遺物を確認したものは極めて少なく、時期が不明なものがほとんどである。加えてプランや掘方が不整なものも少なくなく、すべてが人為的な痕跡とは言い切れない。

旧石器時代では良質の珪質頁岩を利用した使用痕のある石片が認められたことから、ブロックの検出が期待されたが、設定した地点での石器類の出土は認められなかった。

縄文時代はこの遺跡の主体となる。縄文土器や石器が出土した土坑は5基と少ない。しかも各土坑からの出土数も1～数点で出土位置も遺構確認面の高さである。したがって土器が出土したとはいえ明確に縄文時代の土坑とは言い切れない。遺構外出土の縄文土器は約30点と決して多くないが、早期、中期前半、中期後半、後期初頭と4つの時期の存在が確認されたことは、一つの成果といえる。このうち比較的数量が多かったのが中期である。第2章で触れたとおり、周辺には、規模の大きな中期の集落がいくつも存在する。今回の調査区は遺構、遺物から判断して遺跡の中心部とは言い難く、調査区の西～南に広がる可能性があるものの、大きな集落は想定しづらい。

土人形（恵比寿）の出土もこの遺跡のもう一つの成果である。遺跡の北方で、破損しているが数個体が集中していた。小片となってしまっていたものの、カワラケも数点出土しており、両者は伴う可能性もある。先にも触れた宇都宮市平出免の内台遺跡では方形の塚に多種の遺物に混じって出土していた。他の遺物の検討では中世～近代と大きな時間幅のなかでしか捉えられないという。大塚遺跡も同様で、江戸の遺跡を参考にすれば近世以降と思われる。まずは類例の増加を待ちたい。

この周辺には、中世あるいはそれ以降の塚や墓地あるいはカワラケ、内耳土器の散布地も多く所在する。特に遺跡の南西1.2 kmにある野高谷薬師堂遺跡は中世の一大墓地で、区画溝の内側に多数の地下式土坑や井戸、方形竪穴などが作られている。近世以降も規模が縮小しつつも、連綿と墓地として営まれ続けたことが判明している。さらに南方には飛山城とその関連する城跡や館跡などの遺跡が所在し、該期の重要な地域であることは広く知られている。そのような環境のなかで改めて大塚遺跡とそれらとの関連を迫る必要がある。

大塚遺跡では、縄文時代の細かい時期が限定できたこと、そして、近世以降の民間信仰の材料として、土人形が新たな研究の資料として提示できたことが発掘調査の成果である。周辺地域の歴史を考える上で参考になればと願いまとめとしたい。

写 真 图 版



調査区全景（南から）



調査区全景（北から）

図版一 調査区近景



調査区（東から）



調査区近景（南東から）



遺構確認状況(南から)



遺構確認状況(北東から)



1 トレンチ遺構確認状況(北から)



2 トレンチ遺構確認状況(北から)



3 トレンチ遺構確認状況(北から)



基本土層(西から)



S-1 覆土断面(南東から)



S-1 完掘(北東から)



S-2 覆土断面(北東から)



S-2 完掘(北から)



S-3 完掘(北から)



S-4 完掘(北から)



S-5 完掘(南東から)



S-6a・b 覆土断面(北東から)



S-6 完掘(東から)



S-7 覆土断面(東から)



S-7 完掘 (東から)



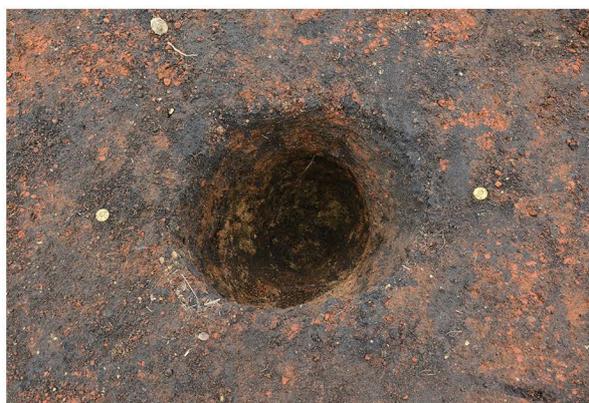
S-8 A 覆土断面 (北東から)



S-8 A 完掘 (北東から)



S-8 B 覆土断面 (南東から)



S-8 B 完掘 (南東から)



S-8 C 完掘 (南東から)



S-8 D 完掘 (南東から)



S-8 E 完掘 (南東から)



S-8・S-10 完掘 (北から)



S-9a 覆土断面 (南東から)



S-9a 遺物出土状況 (北東から)



S-9 完掘 (東から)



S-10 覆土断面 (北から)



S-10 完掘 (北から)



S-11 覆土断面 (南西から)



S-11 完掘 (南西から)



S-12a・12b 覆土断面(東から)



S-12a・12b 完掘(東から)



S-13 覆土断面(北東から)



S-13 完掘(北東から)



S-14 覆土断面(北東から)



S-14 完掘(北東から)



S-15 覆土断面(東から)



S-15 完掘(東から)



S-16 覆土断面 (東から)



S-16 完掘 (南東から)



S-17 覆土断面 (東から)



S-17 完掘 (東から)



S-18A・18B 覆土断面 (南東から)



S-18A・18B 完掘 (南東から)



S-19 覆土断面 (東から)



S-19 完掘 (東から)



S-20 完掘 (東から)



S-21 覆土断面 (東から)



S-21 完掘 (東から)



S-17～S-21 全景 (北から)



S-22 覆土断面 (東から)



S-22 完掘 (東から)



S-23 覆土断面 (東から)



S-23 完掘 (東から)



S-24 覆土断面 (北から)



S-24 完掘 (北から)



S-25 覆土断面 (南東から)



S-25 完掘 (南東から)



S-26 完掘 (北から)



S-27 覆土断面 (北から)



S-27 完掘 (北から)



S-28 覆土断面 (南東から)



S-28 完掘 (南東から)



S-29 覆土断面 (東から)



S-29 完掘 (東から)



S-30 覆土断面 (南東から)



S-30 完掘 (東から)



S-31 覆土断面 (南東から)



S-31 完掘 (東から)



S-32 覆土断面 (東から)



S-32 完掘 (東から)



S-33 覆土断面 (東から)



S-33 完掘 (東から)



S-29～S-33 完掘 (北から)



S-34・35 覆土断面 (南東から)



S-34・35 完掘 (南東から)



S-35 遺物出土状況 (東から)



S-36 覆土断面 (東から)



S-36 完掘 (東から)



S-37 覆土断面 (東から)



S-37 完掘 (東から)



S-38 覆土断面 (東から)



S-38 完掘 (東から)



S-39 覆土断面 (北東から)



S-39 完掘 (北東から)



S-40 覆土断面 (東から)



S-40 完掘 (東から)



S-41 覆土断面 (南東から)



S-41 完掘 (南東から)



S-42 覆土断面 (南東から)



S-42 完掘 (南東から)



S-43 覆土断面 (北から)



S-44 完掘 (東から)



S-45 完掘 (南東から)



S-46 覆土断面 (北東から)



S-46A・46B 完掘 (北東から)



S-47 覆土断面 (南東から)



S-47 下層覆土断面 (南東から)



S-48 覆土断面 (南から)



S-48 完掘 (南から)



S-49 完掘 (北から)



S-50 覆土断面 (東から)



S-50 完掘 (北東から)



S-51 完掘 (北から)



S-52 覆土断面 (北西から)



S-54 覆土断面 (東から)



S-56 B-B' 覆土断面 (北西から)



S-56 完掘 (西から)



S-57 覆土断面 (東から)



S-57 完掘 (東から)



S-59 完掘 (南から)



S-60 完掘 (東から)



旧石器時代調査状況 (南西から)



旧石器時代調査 B-B' 堆積状況 (西から)



旧石器時代調査 A-A' 堆積状況 (南西から)



A'3 遺物出土状況 (東から)

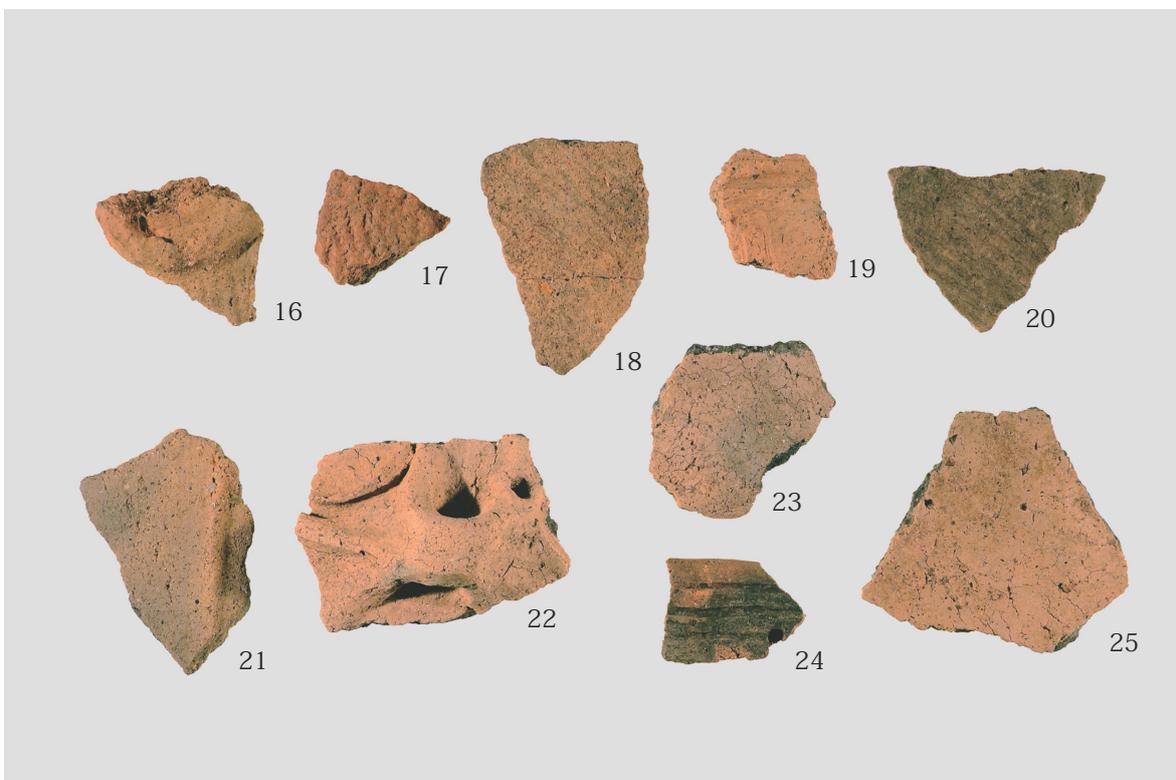
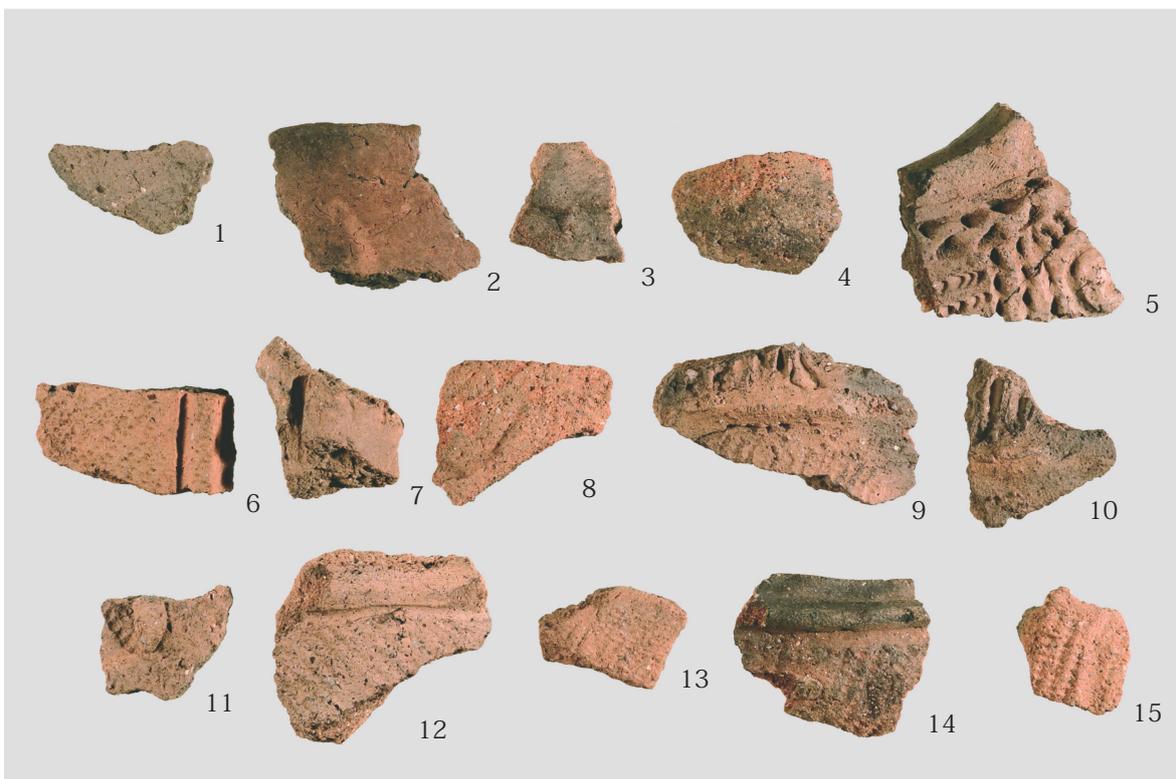


調査区完掘状況 (北東から)



調査区完掘状況 (南から)

图版十八 遺物(一)







31



31



32



35



35



35



35



35

報告書抄録

ふりがな	おおつかいせき
書名	大塚遺跡
副書名	快適な道づくり事業費(交付金)主要地方道宇都宮向田線大塚工区に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第379集
編著者名	藤田典夫
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒329-0418 栃木県下野市紫474番地 TEL 0285-44-8441
発行機関	栃木県教育委員会 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦2016年3月29日(平成28年3月29日)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおつかいせき 大塚遺跡	はがまちおおあざ 芳賀町大字 しもたかねざわあざ 下高根沢字 おおつか 大塚	09345	17	36° 34' 30"	140° 0' 20"	20150501～ 20150731	5,200 m ²	県道改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大塚遺跡	集落跡	旧石器 縄文 近世以降	土坑75基	縄文土器・石器・土人形・カワラケ・砥石	

要約	<p>遺跡は、鬼怒川と野元川に挟まれた宝積寺台地上、樹枝状に延びた低地を望む位置に所在する。大小の土坑75基を調査した。遺構に伴う遺物は少なく、時期不明のものが多い。遺物は旧石器時代の石器、縄文時代早期、中期～後期の土器・石器、近世以降の土人形(恵比寿)、カワラケなどが出土している。</p> <p>今回の調査区は、遺跡の中心をはずれているものの、縄文中～後期が主体となる集落と推定される。近世以降の土人形は民間信仰の広まりの一端を示す可能性があり、貴重な事例となった。</p>
----	---

栃木県埋蔵文化財調査報告第 379 集

大 塚 遺 跡

—快適な道づくり事業費（交付金）主要地方道宇都宮向田線大塚工区
に伴う埋蔵文化財発掘調査—

発行 栃 木 県 教 育 委 員 会

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20

T E L 028 (623) 3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団

宇都宮市本町 1 - 8

T E L 028 (643) 1011

平成 28 年 3 月 29 日発行

編集 公益財団法人とちぎ未来づくり財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

T E L 0285 (44) 8441

印刷 第一印刷株式会社

本書は栃木県教育委員会の承認を得て、
(公財)とちぎ未来づくり財団が発行す
るものである。